



NEXCO西日本グループ
 コミュニケーションレポート
2016

要約版



「アイハイウェイ」とは、高速道路やサービスエリアをご利用されるお客さまの安全・快適な走行計画にお役にいただくために、全国の高速道路の交通情報や道路映像などを24時間、携帯電話やパソコンのインターネットを活用して配信するサービスです。



「DRIVE&LOVE」は、「愛する人・愛してくれる人を想う気持ち」を原動力に、みんなでいっしょに交通事故ゼロを目指すプロジェクトです。



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council®) で認証された森林およびその他の責任ある由来の原料を含む「FSC® 認証紙」を使用しています。



大気汚染の原因となるVOC (揮発性有機化合物) の発生を減らすため、植物油インキを使用しています。

(お問い合わせ先)

西日本高速道路株式会社 本社 CSR推進課
 TEL(06)6344-4000(代表) FAX(06)6344-7183
 インターネットからのお問い合わせ: NEXCO西日本ウェブサイト (<http://www.w-nexco.co.jp>) から、「お問い合わせ」ページへアクセスできます。

事業エリア(24府県)

〔凡 例〕 高速道路
 営業中道路 事業中道路^{※1}
 事業中道路^{※1}(新直轄方式^{※2}で整備する区間)
 中国自動車道
 播磨自動車道
 舞鶴若狭自動車道
 米子自動車道
 山陰自動車道
 山陰道(安来道路)
 松江自動車道
 穴道JCT
 松江玉道
 米子西
 米子
 三刀屋木本
 出雲
 山陰道(江津道路)
 江津
 浜田自動車道
 浜田JCT
 三次東JCT
 落合JCT
 北房JCT
 岡山自動車道
 岡山JCT
 瀬戸JCT
 播磨新宮
 播磨JCT
 山陽自動車道
 山陽JCT
 春日JCT
 徳部JCT
 八日市
 甲賀土山
 中国自動車道
 高松自動車道
 和歌山JCT
 和歌山南SIC
 徳島自動車道
 徳島JCT
 徳島東
 阿南
 南紀田辺
 有田
 印南
 湯浅御坊道路
 阪和自動車道
 丹波
 京都縦貫自動車道
 高槻JCT
 甲賀土山
 新名神高速道路
 大津JCT
 大津東JCT
 八幡JCT
 京奈和自動車道(京奈道路)
 京奈和自動車道
 第二京阪道路
 近畿自動車道
 西名阪自動車道
 伊川谷JCT
 須磨
 美原JCT
 松原JCT
 羽曳野
 葛城
 第二神明道路(北線)
 第二神明道路
 関西国際空港連絡橋
 関西国際空港
 関西空港自動車道
 リンくうJCT
 泉佐野JCT
 泉佐野

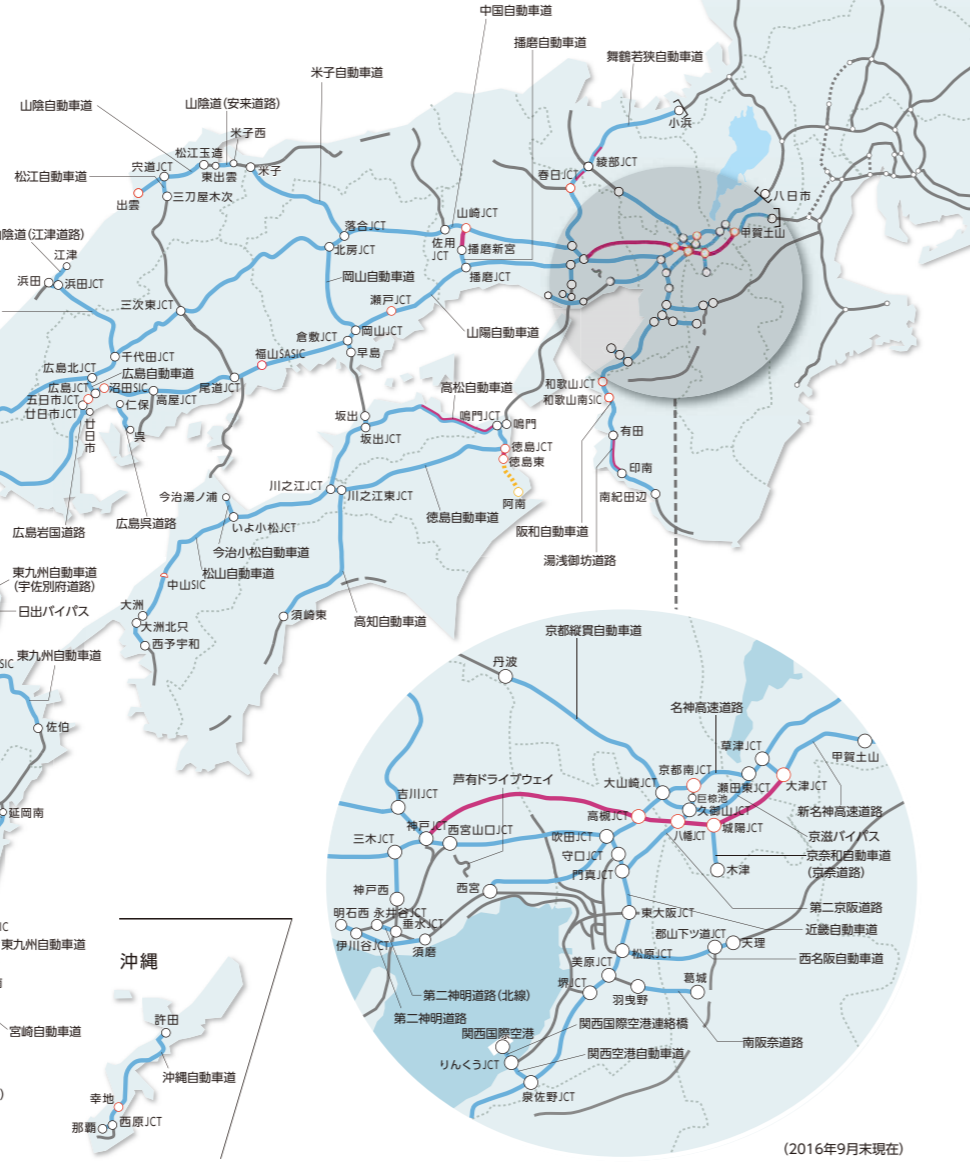
注1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
 注2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式

高速道路事業
 営業中道路 3,460km
 利用台数 277万台/日(2015年度実績)
 営業収入 7,396億円(2015年度実績)
 事業中道路(NEXCO西日本が整備する区間) 95km
 事業中道路(新直轄方式で整備する区間) 91km

SA・PA事業
 サービスエリア 98(92)カ所
 パーキングエリア 208(90)カ所
 売上高 1,421億円(2015年度実績)

※上下線各1カ所をカウントしたエリアの数
 ※()内は、第三セクターの運営を
 除いた有人の営業施設の数

標記上の略称
 JCT：ジャンクション
 SA：サービスエリア
 PA：パーキングエリア
 SIC：スマートインターチェンジ



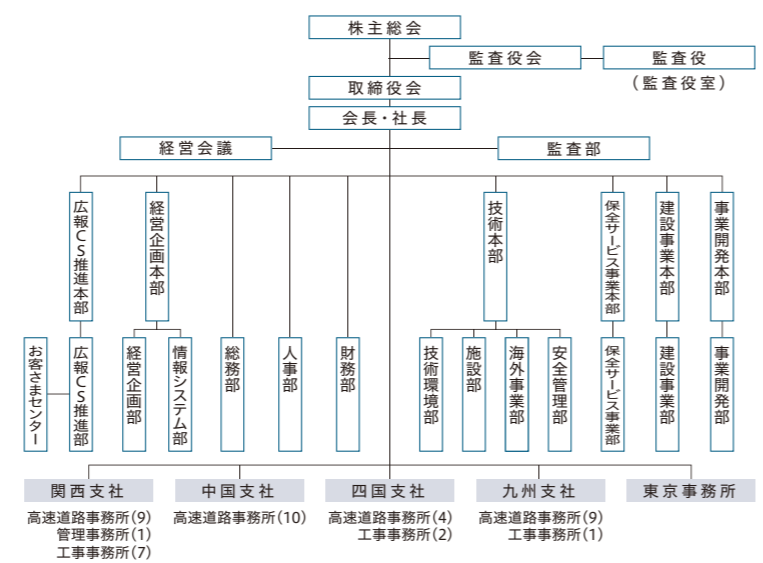
(2016年9月末現在)

会社概要 (2016年9月現在)

商号 西日本高速道路株式会社
 (West Nippon Expressway Company Limited)
 代表者 代表取締役社長 石塚 由成
 本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号
 資本金 475億円
 設立年月日 2005年10月1日
 従業員数※ (単体)2,374人 (連結)13,744人
 ※ 2016年3月末現在



組織図 (NEXCO西日本、2016年9月現在)



グループ会社 (2016年9月現在)

連結子会社 26社

- 料金収受
 - 西日本高速道路サービス関西株式会社
 - 西日本高速道路サービス中国株式会社
 - 西日本高速道路サービス四国株式会社 (※ 交通管理も実施)
 - 西日本高速道路サービス九州株式会社
 - 西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社 (※ 交通管理、点検・管理、保全作業も実施)
- 交通管理
 - 西日本高速道路パトロール関西株式会社
 - 西日本高速道路パトロール中国株式会社
 - 西日本高速道路パトロール九州株式会社
- 点検・管理
 - 西日本高速道路路エンジニアリング関西株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社 (※ 保全作業も実施)
 - 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
 - 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社 (※ 保全作業も実施)
- 保全作業
 - 西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
- 不動産関連業務および人材派遣業務
 - 西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- SA・PAの運営・管理
 - 西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
 - 西日本高速道路ロジスティクス株式会社
 - 西日本高速道路リテール株式会社
- 有料道路の運営・管理
 - 芦有ドライブウェイ株式会社
- 海外事業
 - NEXCO-West USA, Inc.
- ウルトラファインパブル関連事業
 - 株式会社Ligarc
- 橋梁補修技術の開発および工事・コンサルタント事業
 - 株式会社富士技建
 - 株式会社ドーユー大地
- 広告事業
 - NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

持分法適用の子会社 1社

- SA・PAの運営・管理
 - 沖縄道路サービス株式会社

関連会社 6社

- システムの開発・改良および運用管理
 - 株式会社NEXCOシステムズ
- 研究および技術開発
 - 株式会社高速道路総合技術研究所
- 料金収受機械保守
 - ハイウェイ・トール・システム株式会社
- 保険代理店業務
 - 株式会社NEXCO保険サービス
- トラックターミナルの運営
 - 九州高速道路ターミナル株式会社
- 海外事業
 - 日本高速道路インターナショナル株式会社

使用する略称
 本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社および関連会社を含めたグループ全体を表します。
 また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

目次

NEXCO西日本グループの事業 3
 トップメッセージ 5
 NEXCO西日本グループの使命 7
 中期経営計画2020 9
 CSRの重要課題と取り組み状況 11

特集

1 高速道路の点検・再生 15
 熊本地震への対応 18

2 高速道路網の整備 19

3 地域社会の活性化 23
 コーポレート・ガバナンス 27

ステークホルダーとともに

■ お客さま 29
 ■ 社会 32
 ■ 投資家・国民の皆さま 37
 ■ お取引先 38
 ■ グループ社員 39

より広い社会、未来への働きかけ

■ 環境保全 41
 ■ 社会貢献 43

財務報告 44
 第三者意見・第三者意見をうけて 45
 編集方針 46



NEXCO西日本グループの事業

NEXCO西日本グループは、高速道路の建設と安全かつ効率的な運営管理、お客さま満足度の向上を目指すSA・PAの運営管理を主な事業とすると同時に、国民の皆さまの資産である高速道路の価値を最大化するべく、新しい価値の創造に取り組んでいます。

高速道路事業

当社の行う高速道路のプロジェクトでは、道路整備特別措置法(第3条)に基づく事業許可申請を行い、国土交通大臣から事業許可を得たのち、資金を調達し、地元協議、用地取得を行います。その後、沿道地域への工事説明を行い、安全と環境に配慮しながら、コストを削減しつつ工期を短縮し、高速道路の早期開通を目指します。

完成した道路資産は、高速道路機構に譲渡して、以降は協定に基づき当社が管理・料金収受の業務を行います。お客さまからいただく料金は、高速道路の公共性に鑑み、当社の利潤を含めないことを前提としており、料金収入は高速道路機構への道路の賃借料の支払いおよび管理費用に充てられます。



用地の取得・建設 料金の収受 道路・施設設備の維持管理 パトロール 地域と連携した取り組み

関連事業

SA・PAの運営管理では、レストランやハイウェイショップ等のテナント会社と協力して、くつろぎ、楽しさ、賑わいなどを創出しています。

また、2013年度から、地域と連携した取り組みをSA・PAで新たに実施するなど、お客さまと地域の皆さまに新たな価値を提供しています。

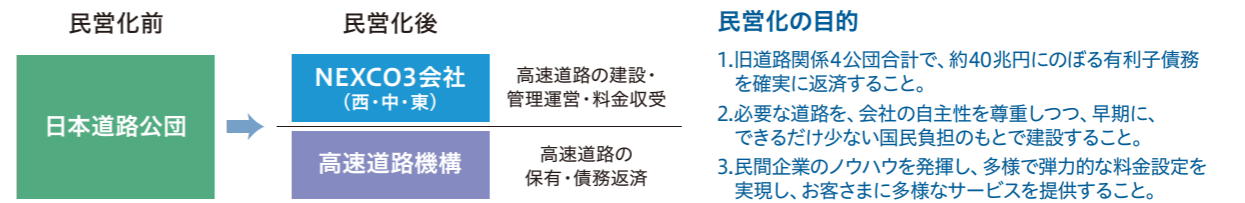


飲食・物販店舗、給油所等の運営

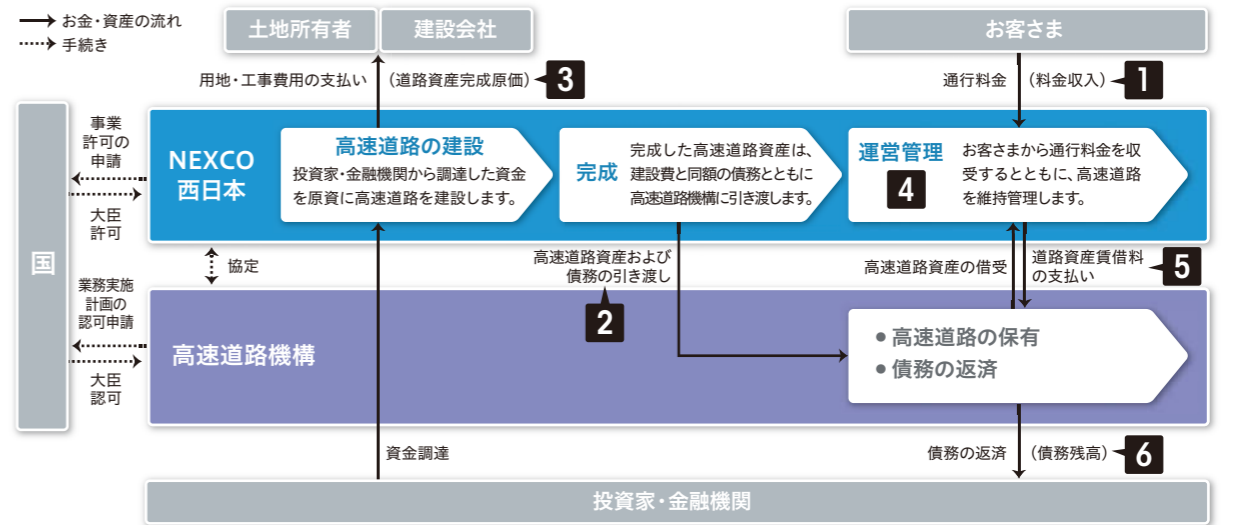
高速道路事業とNEXCO西日本の役割

高速道路民営化とは

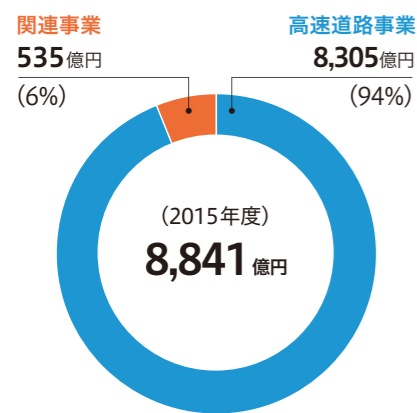
当社は、旧日本道路公団(JH)の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。高速道路資産とその債務は高速道路機構が保有し、当社を含む高速道路会社各社は、高速道路機構から高速道路資産を借り受け、運営管理を担っています。



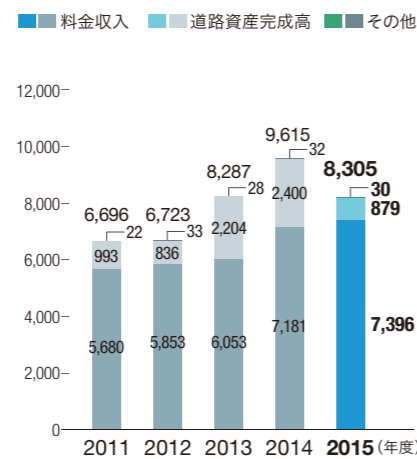
運営スキーム



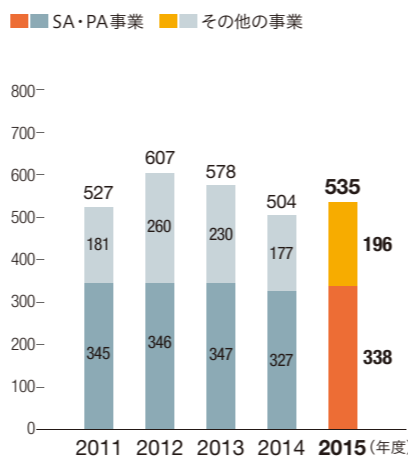
営業収益の事業別内訳 (単位: 億円)



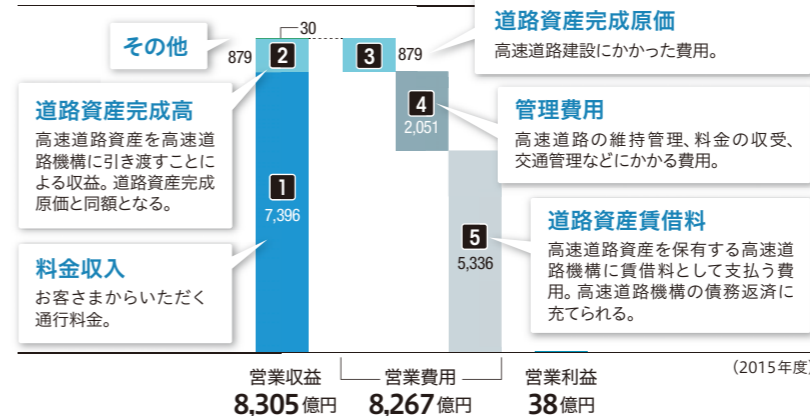
高速道路事業の営業収益 (単位: 億円)



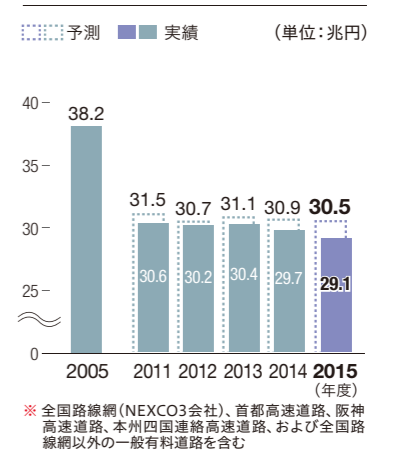
関連事業の営業収益 (単位: 億円)



高速道路事業の損益 (1 2 3 4 5)



高速道路機構の債務残高※ (6)



これからも高速道路の安全・安心を最優先に 社会から信頼され成長する企業グループをめざします。



西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

石塚 由成

まず、2016年4月の神戸市北区および5月の箕面市の新名神高速道路の工事現場で発生した事故についてお詫び申し上げます。神戸市北区の事故では、橋梁の架設作業中に橋桁が国道176号に落下し、2名の作業員の尊い命を失うという重大な結果を引き起こしました。お亡くなりになられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、負傷された方々をはじめ、ご家族の皆さま方にお見舞い申し上げます。

また、落下した橋桁が国道176号を約2カ月半にわたって通行止めにしたこと、および橋桁架設工事の仮受設備(ベント)の転倒により箕面有料道路を長時間通行止めしたことで、周辺地域の皆さまをはじめ多くの方々に多大なご迷惑をお掛けしたことについても、重ねて深くお詫びいたします。高速道路という社会の重要インフラを守り、つねに安全・安心を追求することの大切さをあらためて痛感しております。今後はこのような事故を二度と発生させないよう、工事の仮設備も含めて第三者被害を及ぼす可能性があるリスクへの

感度をさらに高め、再発防止に徹底的に取り組んでまいります。

加えて、昨年度、NEXCO西日本の元社員2名が収賄容疑で逮捕・起訴され、有罪判決が下されるという事態が発生し、当社への社会的な信頼を大きく失墜させてしまったことを深くお詫びいたします。今回の事態を受け、当社では外部有識者による「社員の契約手続きに係る不正事案再発防止検討委員会」を2015年7月に設置し、事実関係の調査および原因究明に取り組みました。さらに2015年11月の同委員会による報告書を踏まえ「コンプライアンス推進体制の整備」等を柱とする再発防止策の徹底に取り組んでおります。

一方で、民営化10年の業務点検では、民営化後の重大な災害や事故を踏まえ、これまで以上に会社の安全・安心な通行の確保に対する社会的な役割を果たしていくことが重要であるとの見解が示されました。

こうした社会情勢や当社における教訓を踏まえて、このたびグループ理念を改定しました。新しいグループ理

念では、「社員一人ひとりがリスク感度を高め『高速道路の安全・安心』を最優先に取り組んでいくこと」、および事業を着実に推進し地域の課題やニーズに的確に対応していくことにより「社会から信頼され成長する企業グループをめざすこと」を明確に打ち出しています。

そのグループ理念のもと、2016年度から2020年度までの今後5年の具体的な取り組みである中期経営計画2020を策定し、さらに満足度の高い機能・サービスの提供をめざすとともに、グループ一丸となって企業価値の向上に努めてまいります。

当社グループは、高速道路という社会インフラとしての使命を果たすことを企業の社会的責任(CSR)として考えています。その一環として、当社は「国連グローバル・

コンパクト」の人権・労働・環境・腐敗防止に関わる10原則を支持しており、2009年からその活動に参加しています。あらゆる事業活動を通じてお客さまや株主の皆さまをはじめ、協力会社や取引先、従業員、沿道地域の皆さまなど、さまざまなステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

2016年9月

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

石塚 由成

新名神有馬川橋橋桁落下事故を受けた 再発防止策と開通目標時期の見直しについて

NEXCO西日本では今般の事故を受け、管内すべての建設工事を一時中止したうえで安全についての緊急点検を実施するとともに、有識者による技術検討委員会を設置し、事故原因の究明と再発防止策の検討を行ってきました。その概要は下記の通りです。

なお、これまで会社努力目標で2016年度末としていた高槻JCT～神戸JCT間の開通時期は、技術検討委員会の中間とりまとめに基づき見直した工事の施工工程や、今後もすべての工事の各段階において継続的な安全点検を実施しつつ考えられる安全対策を確実に実行することを踏まえ、見直すこととしました。

特に工事の施工管理の面においては、潜在しているリスクの洗い出しとともにその管理基準と対処方法の整理、工事の日々の進捗に応じた現場での適切な記録管理などが確実に実行されていることを、発注者である当社自らも確認します。

また、こうした一連の行動を通して日常の安全管理も、従前にも増して受発注者が協働して励行してまいります。

以上のとおり、当社では安全を十全に確保したうえで、今後も一日も早い開通をめざし引き続き努力していくことで責任を果たしていきたいと考えております。皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。



社長(右端)による現場視察

事故概要

事故内容: 有馬川橋の橋梁上部工工事において、架設中の鋼鉄製の橋桁(上り線、約120m、約1,350トン)の西側が約20mの高さから国道176号上に落下した

人的被害: 死亡者2名、負傷者8名

公衆被害: 国道176号の通行止め(7月9日解消)および旧国道176号の通行止め、国道176号の道路関連設備の損傷

事故原因: 地盤の事前調査・改良が不十分だったことによる、仮設構造物(ベント支柱)基礎部の不等沈下とベント支柱の傾斜(検討委員会による中間とりまとめより)

再発防止策と今後の実施方針

当該工事では、事故時に採用していた降下用受梁を用いた吊り下げ方式からサンドル※方式に変更。また、すべての工事で、受注者と発注者である当社が協働して、構造物(ハード)・施工管理面(ソフト)の両面での対策を徹底することとしました。

※ H形鋼等を井桁状に積み上げた架台

開通時期(会社努力目標)の見直し

高槻JCT～神戸JCT間41km:2016年度末→2017年度末(うち高槻JCT～川西IC間24km:2017年秋頃)

※ 高速道路機構との協定上の開通予定年度は2018年度

スローガン

みち、ひと・・・未来へ。

安全・安心・快適な高速道路が結ぶ、人と人、地域と地域。

夢ひろがるアイデアと、心のこもったサービスで新しい出会いや喜びを生み出します。

NEXCO西日本は、100年先の未来に向け技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。

3つの目指す姿

高速道路に変わらぬ安全と、
これまでにない感動を

地域を愛し、
地域とともに生きる

たゆまぬ技術の革新で、
100年先の未来へ

グループ理念

企業グループとしての普遍的な姿勢と目標 (2016年7月改定)

私たちはリスクマネジメントを徹底し、
高速道路の安全・安心を最優先に、

お客様の満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、
社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

グループ行動憲章

グループ社員一人ひとりが実践すべき行動の指針

NEXCO西日本グループ行動憲章(総論) (2012年12月改訂)

1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
5. 5つのステークホルダー(お客様、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先)の信頼に応えます。

WEB掲載情報 NEXCO西日本グループ行動憲章(全文)

http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/management_strategy/conduct.html

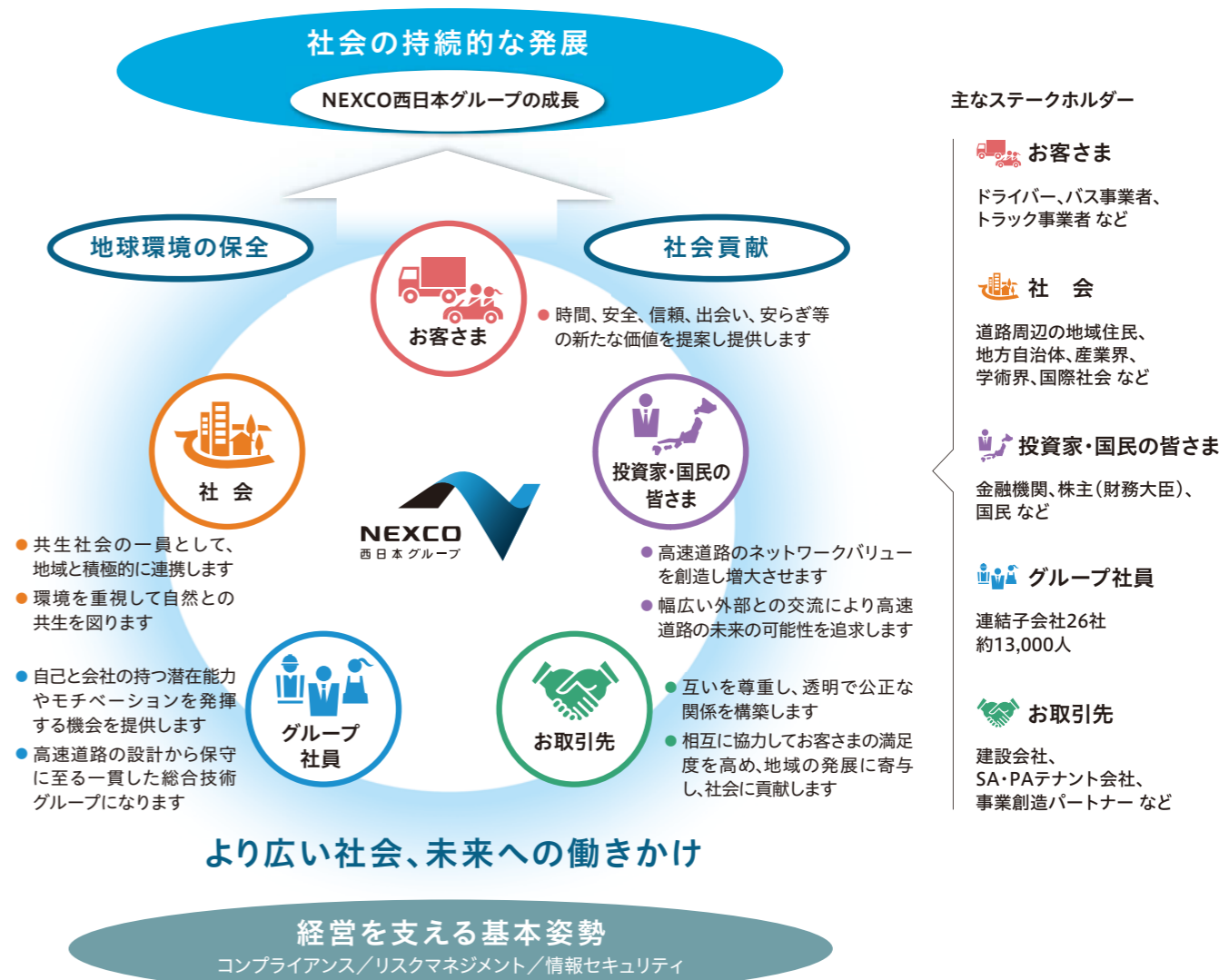
グループのCSR活動方針

事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSRは、本業(事業活動)を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」「SA・PAでのお客様サービスの提供」であり、それらを着実に実行することにより、社会の発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。

また、私たちはCSRを推進させていくにあたっては、ステークホルダーとの対話を通じて当社グループへの期待を的確に把握し、事業活動のプロセスに組み込んでいくことを大切にしています。対話を通じて明らかになった社会的課題を、これまで培ったノウハウや資源を活かして解決していくことで、社会の持続的な発展に貢献していきます。

ステークホルダーへの約束



中期経営計画2020

高速道路は我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、NEXCO西日本グループは24時間365日、この高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。当社グループはこの使命を全うするため、新しいグループ理念(7ページ参照)のもと、2016年度からの5カ年の中期経営計画2020を推進していきます。

策定の背景と基本的な考え方

経営環境の変化



- 老朽化の深刻化
- 大型車、重量超過車両の増加
- 異常気象、災害の頻発化 (東日本大震災、熊本地震、南海トラフ・内陸直下型地震への懸念)
- 次世代エネルギー普及の促進
- 自動運転の実現
- 地域創生の推進
- 訪日観光客の増加
- 生産性の向上への期待

3つのキーワード 「安全・安心」「信頼」「成長」

「安全・安心」の追求が基本

- 社員一人ひとりがリスク感度を高め、高速道路における「安全・安心」という基本のサービスを最優先に、高い品質でお客さまにお届けします。
- 重要な社会基盤である高速道路ネットワークを強化し、健全な状態で次世代へと継承します。
- 24時間365日高速道路の機能を保持するとともに、異常気象や災害・事故に対しても迅速に対応し、間断ない交通の確保に向けた防災対応力を高めます。

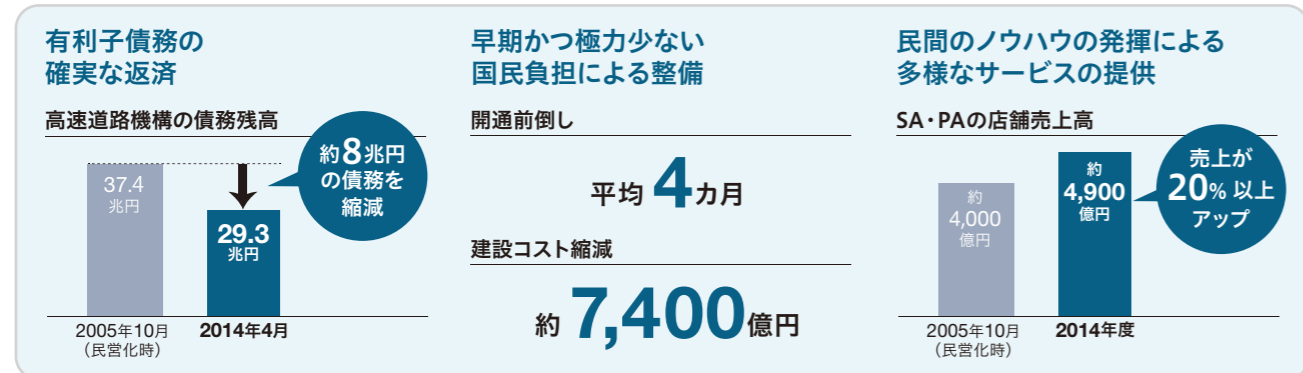
「信頼」されるサービスと組織運営を目指す

- NEXCO西日本グループは、社員一人ひとりがコンプライアンスを重視し、社会から信頼され必要とされる組織となるように努めます。
- 地域の魅力や特性と高速道路ネットワーク機能との相乗効果により高速道路の価値最大化を目指すと共に、地域から期待される事業を展開します。

地域と共生し、持続的な「成長」を目指す

- 高速道路ネットワークの価値を最大化する取り組みを継続し、地域と共に100年先の未来まで持続的に成長していきます。
- 高速道路を取り巻く環境の変化に適切に対応し、グループ一体となって進化し続けます。

民営化後の主な成果 日本道路公団の分割民営化、NEXCO3会社の設立から10年。着実な成果を上げています。



※ 主な成果に記載する数値はNEXCO3会社の合計値

主な重点施策

① 100年後も安心して利用できる高速道路



高速道路リニューアルプロジェクトに着手



プレキャストPC床版への取り替え工事

② 高速道路ネットワークの機能強化



新名神の建設を推進



新名神 武庫川橋の建設状況

③ お客さまと地域の皆さまに愛されるSA・PA



賑わい空間の創出



地域の魅力を発信

④ 工事の安全対策の徹底



新たに設置した「安全管理部」を中心にリスクマネジメントを推進

⑤ 大規模災害など緊急時への備え



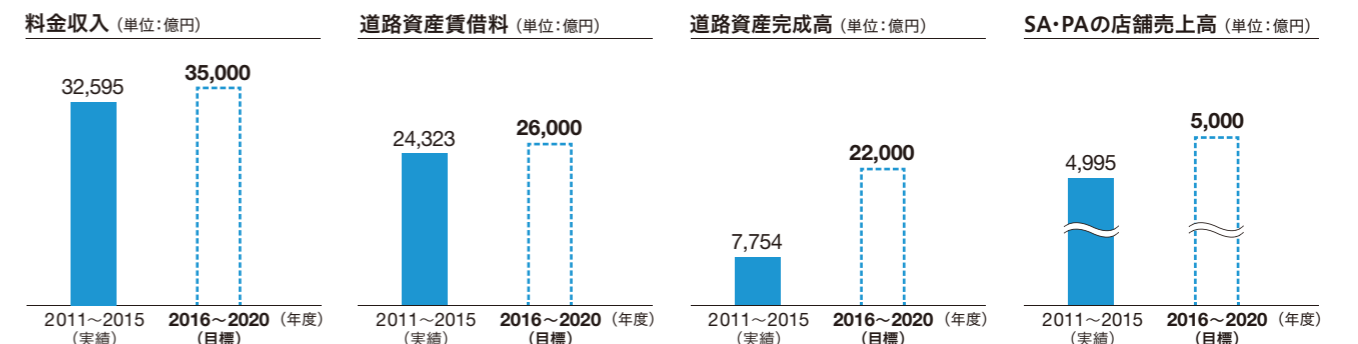
防災訓練(段差補修訓練)の様子

⑥ 熊本地震の本格復旧



大分道 切土のり面崩落箇所

経営目標






※ 「道路資産賃借料」「道路資産完成高」についての詳細は、4ページの「高速道路事業とNEXCO西日本の役割」をご覧ください。

マテリアリティ
CSRの重要課題と取り組み状況

NEXCO西日本グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針(8ページ参照)のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。また、目標の設定・管理にあたっては、高速道路という社会インフラを預かる企業として、安全・安心につながるものを最優先とし、事業に根差した活動に継続的に取り組んでいくことを重視しています。

CSRの重要課題と取り組み状況について

サステナビリティ(持続可能性)報告の国際的ガイドラインとして、組織の形態、業種、事業規模、国・地域などを問わず幅広く活用されている「GRIガイドライン第4版」(G4)では、CSRの重要課題を特定することが求められています。以下の表では、当社グループの特定した重要課題がG4のどの指標にあたるかを示しています。高速道路事業は、国民の生活に密接に係わる基本的な社会インフラであるため、関わりのあるステークホルダーも多く、重要課題は多岐にわたっています。

重要課題(マテリアリティ)	ステークホルダーとの対話の機会(参加者)*1	重要である理由	KPI・マネジメントアプローチ				GRIガイドライン第4版(G4)では…				関連ページ
			管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲(バウンダリー)	側面(Aспект)	指標(Indicator)		
 お客さま	交通安全の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● お客さまセンター(高速道路利用者) 	死傷事故率*2(走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)	7.4件/億台km	7.6件/億台km	7.3件/億台km	NEXCO西日本事業エリアの全国路線網	〈製品責任〉 顧客の安全衛生	G4-PR1 安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率	29ページ	
			車限令違反車両取締台数(高速道路上で実施した車限令違反車両取締における引き込み台数)	—	7,233台	—			29ページ		
			逆走事件数*2(交通事故または車両確保に至った逆走事件の件数)	—	99件	—			—		
	快適な高速道路空間の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者) ● SA・PAインフォメーション(高速道路利用者) ● CS推進オピニオンリーダー意見交換会(外部有識者) ● 現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) 	高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。	人の立入事案件数(高速道路上で歩行者等の保護または歩行者等がいることの通報を受けた件数)	—	1,348件		—	〈製品責任〉 製品およびサービスのラベリング	G4-PR5 顧客満足度調査の結果	30ページ
				顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価))	3.5ポイント以上	3.6ポイント		3.6ポイント		WEB	
				年間利用台数	—	981百万台		—		WEB	
				通行止め時間(単位営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年間のべ通行止め時間・距離)	—	59時間・km/km		—		G4-EC8 著しい間接的な経済影響(影響の程度を含む)	30ページ
	SA・PAのお客さま満足施設への変革	<ul style="list-style-type: none"> ● 包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	高速道路は基本的なインフラであり、誰もが利用しやすい施設であることが求められます。	本線渋滞損失時間*2(渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)	—	526万台・時間/年		—	〈製品責任〉 製品およびサービスのラベリング	G4-PR3 組織が製品およびサービスの情報とラベリングに関して手順を定めている場合、手順が適用される製品およびサービスに関する情報の種類と、このような情報要求事項の対象となる主要な製品およびサービスの比率	17ページ
				路上工事による車線規制時間(道路1kmあたりの路上作業に伴う年間の交通規制時間)	—	105時間/km・年		—			24ページ
				Wi-Fiサービスの提供箇所数	—	149カ所		—			31ページ
 社会	社会基盤である高速道路の整備と長期保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業説明会(地域住民) ● 設計協議(地域住民) 	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基本的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。	新規開通路線延長	—	—	11km	〈経済〉 間接的な経済影響	G4-EC7 インフラ投資および支援サービスの展開と影響	32ページ	
			管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。	スマートIC新規設置箇所数	3カ所	1カ所	3カ所		WEB		
	災害対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● お客さまセンター(高速道路利用者) ● SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者) 	災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。	快速走行路面率(舗装路面の健全度を表す車線の延長比率)	97%	97%	97%	〈製品責任〉 顧客の安全衛生	G4-PR1 安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率	WEB	
				要補修橋梁率	—	256橋	—			WEB	
	高速道路を通じた地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	人口減少時代を迎え、沿線地域の活性化への貢献が求められています。	南海トラフ地震被害に備えての資機材の新規備蓄箇所	6カ所 累計 232カ所	2カ所 累計 228カ所	4カ所 累計 232カ所	〈社会〉 地域コミュニティ	G4-SO1 事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率	WEB	
ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数	—	1カ所 (累計66カ所)	—	36ページ							
 投資家・国民の皆さま	透明性の高い経営の推進と着実な債務の返済	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路事業アドバイザー会議(経済界・学術界の外部有識者) 	国民の資産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。	高速道路機構の債務削減	4ページの「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。			(旧道路関係4公団)	〈経済〉 経済的パフォーマンス	G4-EC1 創出、分配した直接的経済価値	4ページ
	不正通行対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業評価監視委員会(経済界・学術界の外部有識者) 	また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。	不正通行発生件数(後日課金申出のあった車両を除き、通行料金を支払わず料金所を通過した車両の通行件数。ETC未課金車両を含む)	—	53,473件	—	NEXCO西日本事業エリア	—	—	37ページ
	ステークホルダーとの対話/メディアを通じた情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業説明会(機関投資家) ● 個別投資家訪問(機関投資家) ● 記者会見(マスメディア) ● アンケート調査(コミュニケーションレポート読者) 	ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。	社長定例会見(毎月開催)	—	11回	—	NEXCO西日本	—	—	37ページ
				ウェブサイトアクセス数	前年比+5%	対前年比+4.2%	—				37ページ
「なるほど!高速道路発見」工事現場の一般公開	15回	26回	—	WEB							
CSR報告書での企業活動報告	1回	1回	1回	NEXCO西日本グループ	—	—	—	46ページ			

*1 上記のほか、経営改善に向けた取り組み全般にわたって、外部有識者からご意見をいただく機会として、「高速道路事業アドバイザー会議」を開催しています。

*2 集計期間:2015年1月1日~12月31日

*3 NEXCO西日本サービス・ホールディングスが主催するもの

マテリアリティ
CSRの重要課題と取り組み状況

重要課題(マテリアリティ)	ステークホルダーとの対話の機会(参加者) ^{※1}	重要である理由	KPI・マネジメントアプローチ		KPI・マネジメントアプローチ				GRIガイドライン第4版(G4)では…		関連ページ		
			管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲(バウンダリー)	側面(Aspect)	指標(Indicator)				
お取引先	SA・PAのテナント会社との協働	お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのテナント会社との協働を重視しています。	防犯講習会(不当要求含む)	—	年1回	—	飲食物販テナント事業者	〈人権〉 保安慣行	G4-HR7 業務関連の人権方針や手順について研修を受けた保安要員の比率	WEB			
			食品衛生講習会	—	年1回	—			元売テナント事業者等	〈製品責任〉 顧客の安全衛生	G4-PR1 安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率	38ページ	
			誤給油防止訓練	—	年1回	—					G4-PR2 製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した、安全衛生に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	WEB	
公正な取引関係	● 入札監視委員会(外部有識者)	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数	—	8回	—	NEXCO西日本	〈社会〉 腐敗防止	G4-SO3 腐敗に関するリスク評価を行っている事業の総数と比率、特定した著しいリスク	38ページ			
グループ社員	人材の育成/ ダイバーシティの推進	中期経営計画に定めた「自立と成長」を実現するため、一人ひとりが仕事を通じて自立的に成長していきける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修	—	のべ750回	—	NEXCO西日本グループ	〈労働慣行〉 研修および教育	G4-LA9 従業員一人あたりの年間平均研修時間(男女別、従業員区分別)	WEB			
			資格取得支援制度の利用者数	—	137人	—	NEXCO西日本		WEB				
			女性管理職者比率	—	7.5%	—	NEXCO西日本グループ	〈労働慣行〉 雇用	G4-LA1 従業員の新規雇用者と離職者の総数と比率(年齢、性別、地域による内訳) G4-LA2 派遣社員とアルバイト従業員には支給せず、正社員に支給する給付(主要事業拠点ごと) G4-LA3 出産・育児休暇後の復職率と定着率(男女別)	40ページ			
環境保全	低炭素社会の実現	● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、グループ社員、専門家)	● 環境アクションプラン ● CO ₂ 排出量削減のための省エネルギー活動	電気使用量の抑制によるCO ₂ 排出量の削減(道路施設の維持管理に要する電気使用量)	2009年度比で6%削減する	73.9kWh/km(▲9.1%)	72.3kWh/km以下	NEXCO西日本事業エリア	〈環境〉 エネルギー	G4-EN7 製品およびサービスが必要とするエネルギーの削減量	42ページ		
			● 環境アクションプラン ● グリーン調達の推進	新設料金所等に太陽光発電を設置する	40kWh	40kWh	20kWh			NEXCO西日本事業エリアのSA・PA	〈環境〉 原材料	G4-EN1 使用原材料の重量または量	42ページ
			● 環境アクションプラン ● グリーン調達の推進	電気自動車急速充電設備の整備数	16カ所	16カ所 ^{※2}	—					NEXCO西日本事業エリア	〈環境〉 排水および廃棄物
	循環型社会の形成	高速道路の建設・管理では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。	● 環境アクションプラン ● グリーン調達の推進	建設発生土の有効利用率	80%以上	97.5%	80%以上	NEXCO西日本事業エリア	〈環境〉 排水および廃棄物	G4-EN23 種類別および処分方法別の廃棄物の総重量	42ページ		
				アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	99%以上	100%	99%以上			NEXCO西日本	〈環境〉 サプライヤーの環境評価	G4-EN32 環境クライテリア(評価基準)により選定した新規サプライヤーの比率	42ページ
				コンクリート塊の再資源化率	95%以上	95.9%	95%以上					NEXCO西日本事業エリア	〈環境〉 生物多様性
				刈草等の有効活用率	95%以上	95.9%	95%以上			調達可能なものは100%を目指す	100%		
グリーン調達	調達可能なものは100%を目指す	100%	100%	調達可能なものは100%を目指す	新規開通路線における高機能舗装面積	90km ²	68.8km ²	—	—	—	42ページ		
自然と共生する社会の推進	● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による影響の低減が求められています。	● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	動物侵入防止対策	41km	29.6km	96カ所設置	NEXCO西日本事業エリア	—	—	—		
			● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	新規開通路線における高機能舗装面積	90km ²	68.8km ²	—					—	—
社会貢献	● 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県)	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全啓発活動	—	のべ70回	—	NEXCO西日本グループ	〈社会〉 地域コミュニティ	G4-SO1 事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率	43ページ			
			職場周辺における清掃活動	—	のべ4,020回	—				WEB			
			つなぎの森活動	—	3カ所のべ7.4ha	—				NEXCO西日本管内実施箇所(全7カ所のべ100ha)	WEB		

※1 上記のほか、経営改善に向けた取り組み全般にわたって、外部有識者からご意見をいただく機会として、「高速道路事業アドバイザー会議」を開催しています。
 ※2 ハイウェイオアシスへの設置は含まない

1 高速道路の点検・再生

特集



橋梁点検車からの目視、打音点検

2015年度に実施した
橋梁点検の数
1,946橋



橋梁点検車からの目視、打音点検



ラインセンサカメラを用いた
トンネル覆工コンクリートの点検



撮影した画像から損傷箇所を発見する
auto CLIMA System

2015年度に実施した
I-TR研修参加人数
2,854人
当社グループ全体



ジェットファンの点検



照明設備等の目視、打音点検



トンネル覆工
点検車両

トンネル覆工点検システムの
検査速度
100km/h



サンプルを使った研修の様子

2015年度に実施した
トンネル点検の数
271本



高所作業車からのトンネル坑口の点検



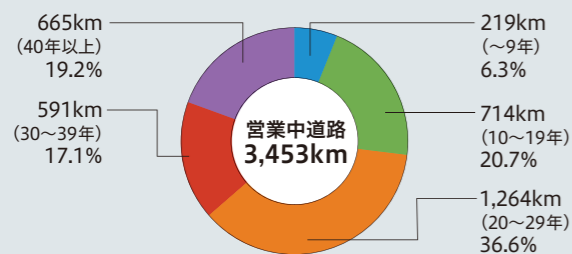
サンプルを使った打音点検の研修

新たな技術の開発と人材育成を強化しながら 道路の大規模更新を推進していきます

課題

約4割が供用後30年を経過するなど
老朽化が進む高速道路

高速道路の経過年数 (2016年3月末現在)



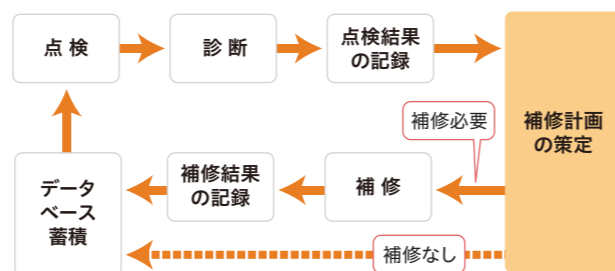
高速道路の老朽化の要因

- 大型車両・交通量の増加
- 短時間異常豪雨
- 凍結防止剤の散布
- 重量超過違反の車両

高速道路を長く安心してご利用いただけるよう 計画的、効率的な点検を実施しています

高度経済成長期に整備されたインフラの老朽化が進むなか、巨大地震等、大規模災害への備えの必要性も高まっています。2013年11月に策定された「インフラ長寿化基本計画」に基づき、道路の維持管理においては事後保全から予防保全へ転換を図り、点検から補修と結果の記録までの一連の業務を効率化することで、メンテナンスコストの最小化を図っています。

保全事業システムの流れ



より効率的かつ高い精度で老朽箇所を 発見できる新技術を開発・導入しています

橋梁点検では目視による点検に加え、2012年度からデジタルカメラを用いた機械点検を導入し、老朽箇所や損傷箇所の早期発見に努めています。超高精細画像の処理技術で状況を的確に把握し、点検者の習熟度に左右されることのない効率的な点検を行っています。

さらに、構造部材を固定するアンカーボルトの劣化や不具合を効率的に点検し、高精度で診断する新たな非破壊検査技術を開発中です。調査で得られる情報は定量的に記録蓄積され継続的なモニタリングが可能となることから、今後の導入が期待されています。

本格化する大規模更新に備え 人材の育成を強化しています

道路の点検・維持管理を担う技術者を育成するため、2015年6月、大阪府茨木市に「未来につなぐ道の学校 茨木技術研修センター」(Ibaraki technical Training center: 愛称I-TR(アイトレ))を開設しました。

I-TRでは実際に劣化損傷した構造体のサンプルを

もとに原因を体系的に理解し、点検から診断までを実体験する「体験型研修」を実施しています。さらに、基礎知識や専門技術を習得する研修もあわせて実施することを通じて、技術力の伝承、向上のための継続的な人材育成を行っています。

社員コメント NEXCO西日本

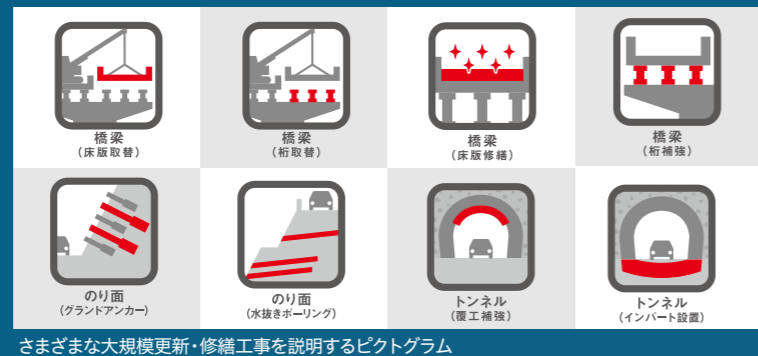
メンテナンスサイクルの中核を 担う技術者を育成しています

道路構造物の劣化進行は、建設時の施工基準、開通後の使用環境などによりさまざまです。また、膨大な点検・診断情報から、危険や劣化要因を察知し、迅速・的確な補修時期と補修工法を判断するには高い技術力が必要で、近年は、点検・診断の効率化や、保全情報を蓄積し迅速活用する情報基盤の高度化なども進められており、保全技術者は、過去の技術変遷から最先端に至る広範な技術の習得が求められています。

I-TRでは、保全技術をはじめ、建設技術・安全管理・技術者倫理など技術者としての自律をサポートする広範な研修プログラムを用意し、メンテナンスサイクルの中核を担う技術者を育成しています。



茨木技術研修
センター長
竹野 毅



ポスター

お客さまや沿道の皆さまへ
分かりやすく丁寧な
情報発信に努めています



ウェブサイト

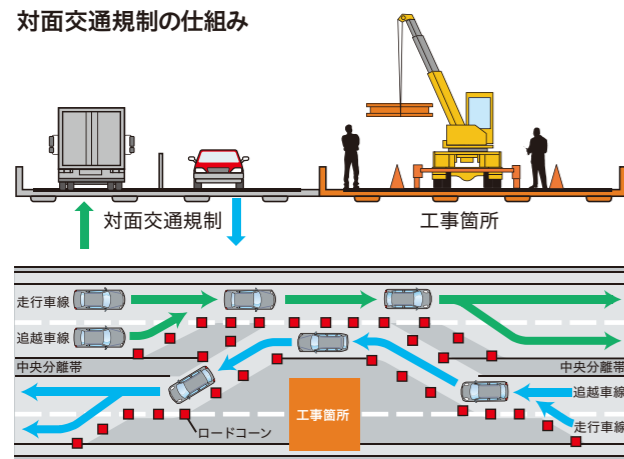


動画

「高速道路リニューアルプロジェクト」に本格着手しています

NEXCO西日本は、2015年3月25日に国土交通大臣から道路整備特別措置法に基づき事業許可を受けた更新事業に2016年度から本格的に着手しています。本事業は、NEXCO3会社あわせて約3兆円の規模で、15年間の長期にわたって実施されます。

対面交通規制の仕組み



床版の取替工事とそれに伴う対面交通規制

本事業では、老朽化した鉄筋コンクリート床版を、より耐久性の高い床版へ取り替えるなどの大規模な工事を実施するため、長期間にわたる交通規制が必要です。当社は交通規制に伴う社会的な影響をできる限り軽減するための工夫を継続的に行うとともに、高速道路をご利用のお客さまや沿道の皆さまに丁寧な情報発信を心掛けてまいります。

熊本地震への対応 全社一丸で、早期復旧に努めました

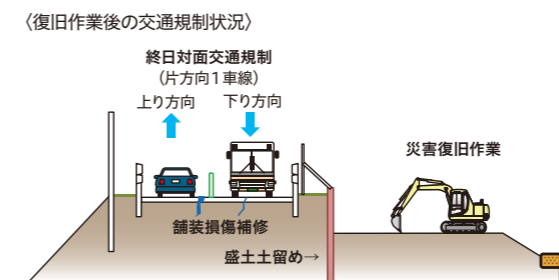
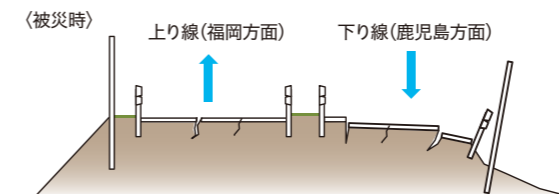
2016年4月の熊本地震では、九州自動車道をはじめとした9路線、延長507kmで通行止めとなりました。

被災直後から、被災箇所の早期復旧に向け、NEXCO西日本グループの総力を結集するとともに、関係機関、建設業界等からの協力のもと、余震が続く状況の中、24時間体制で復旧作業を行い、4月14日の前震以降25日ぶりの5月9日に九州支社管内すべての高速道路の通行止めを解除しました。

地震発生直後の災害対策本部立ち上げ以降、すべての区間の通行止め解除を行うまでに、延べ48回の本部会議を開催し早期解除に努めました。また、当社グループで延べ1,300人規模の九州支社への応援により、24時間体制で点検や復旧作業を実施し、早期通行止め解除に努めました。

また、特に損傷が大きかった箇所については、現在、緊急措置として終日対面交通規制(片方向1車線)による交通運用を実施しています。引き続き全力で復旧作業に取り組み、通行制限(速度規制、重量車両通行制限)の緩和に努めてまいります。

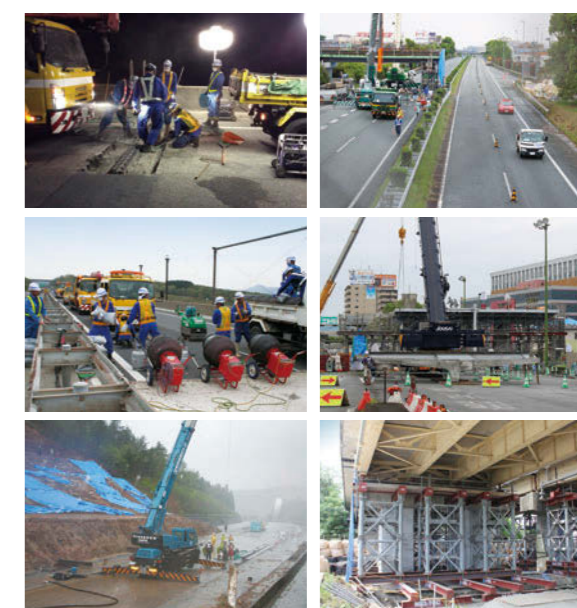
九州自動車道 益城熊本空港IC～嘉島JCT間 盛土のり面崩落箇所



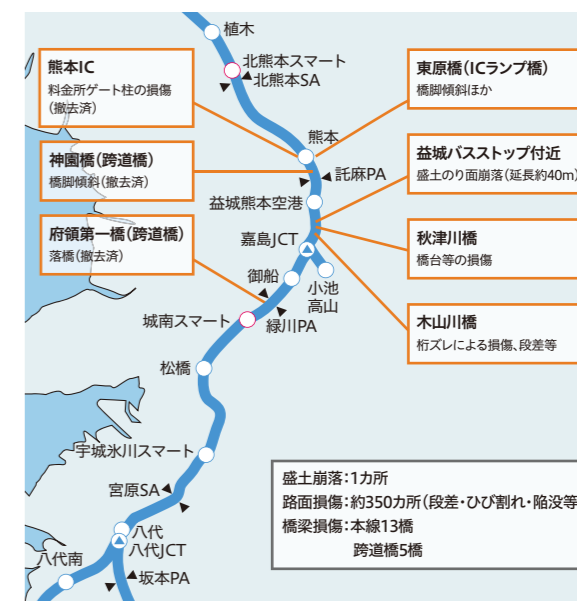
被災直後の崩落箇所



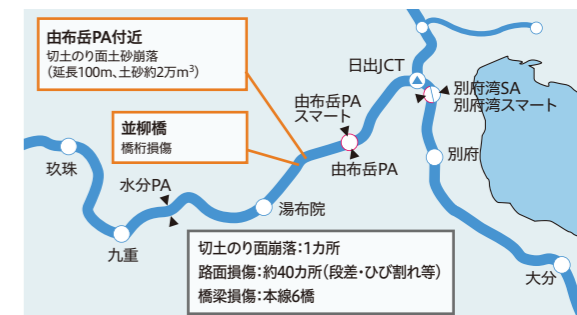
対面交通で仮復旧した崩落箇所



主な被害状況(九州自動車道)



主な被害状況(大分自動車道)



特集 2 高速道路ネットワークの整備

新名神 武庫川橋 (兵庫県神戸市、2016年5月時点)

事業中の
四車線化等改築区間
総延長
107 km



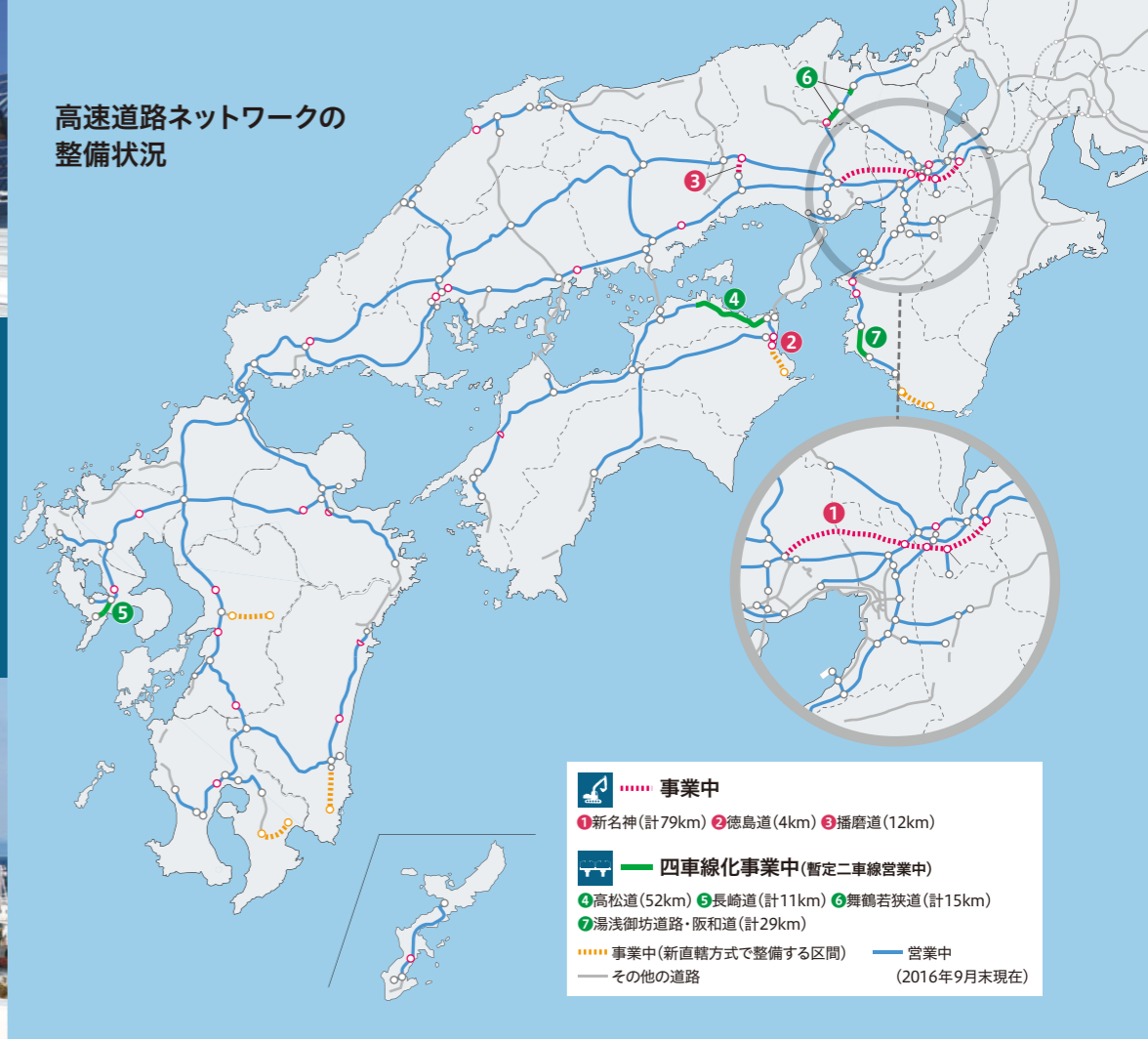
太陽光パネルの設置箇所
2015年までの5カ年
13カ所



新規事業中区間
総延長
95 km



高速道路ネットワークの整備状況



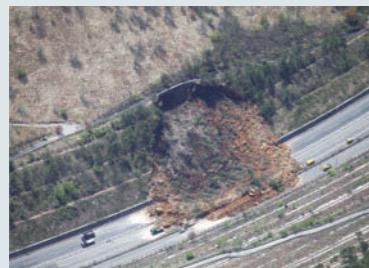
安全・低コスト・早期開通を追求しながら 国民生活を支える社会インフラの整備を推進

課題

慢性的な渋滞の緩和や
災害発生時の緊急避難経路等として
ネットワークの多重化が急務になっています



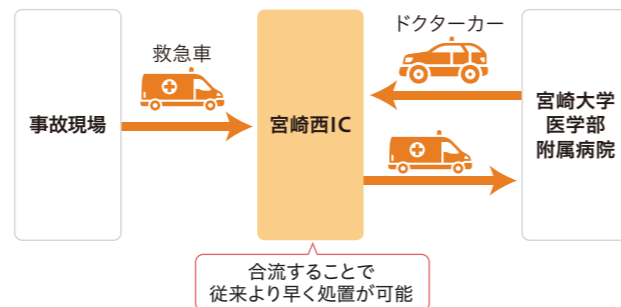
熊本地震による
のり面崩壊で通行
止めになった大分
自動車道(由布岳
PA付近)



東九州自動車道の開通によるアクセス改善で 救急搬送の短縮化が図られています

2014年3月に開通した東九州自動車道(延岡市～宮崎市)では、宮崎大学医学部附属病院が2014年4月からドクターカーの運用を始め、年間101件の出動実績のうち約20件で東九州自動車道が利用されています。ドクターカーはドクターヘリが出動できない天候や時間

東九州自動車道での救急搬送時間の短縮



帯でも医師を乗せて救急現場に派遣される車両で、ICで救急車と合流して処置を行いながら病院へ搬送することで、多くの患者さんの救命に貢献しています。

高速道路の広域ネットワークの形成によるアクセス向上は、一般国道を利用した場合と比較した救急搬送時間の短縮によって救急医療活動への貢献も果たしています。



新工法の採用例(新名神 武庫川橋)

橋桁

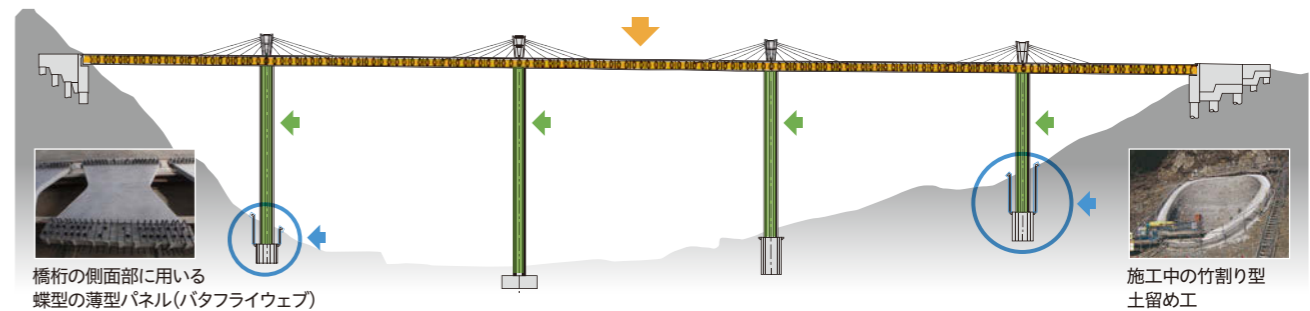
- コンクリート箱桁橋の側面に蝶型の薄型パネルを使用(バタフライウェブ構造)
- 従来工法に比べ10%の軽量化を実現
- パネルは工場で作製するため、現場での施工作業を軽減

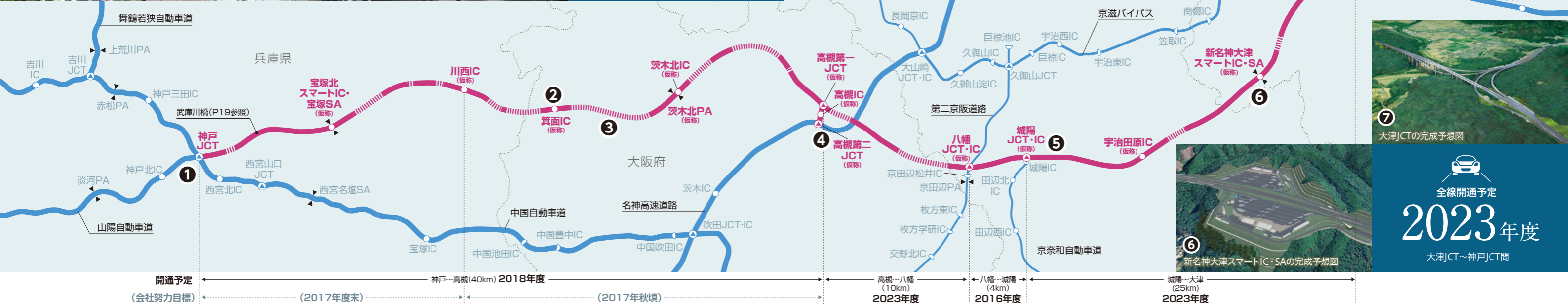
橋脚

- 橋脚にプレキャスト部材を使用し、現場作業の省力化、工期短縮、品質向上を実現

橋脚(基礎)

- 基礎部分に、自然への影響と施工後のメンテナンス費用を低減する「竹割り型土留め工法」を採用





新名神・新東名で最長の
箕面トンネル
4,997m (上り線)

新名神高速道路の整備状況

- 事業中の新名神高速道路
- 営業中の高速道路
- 営業中の一般有料道路

事業中総延長
79km
大津JCT～神戸JCT間

⑤
新名神と京奈和道が接続する城陽JCT

⑦
新名神高速道路

⑦
大津JCTの完成予想図



⑥
新名神大津スマートIC・SAの完成予想図

全線開通予定
2023年度
大津JCT～神戸JCT間

環境や地域社会に配慮しながら 高速道路の建設を進めています

高速道路の計画路線は、市街化された住宅地から都市近郊の農地、山林と多岐にわたっています。建設工事の実施にあたっては関係機関と協議を重ね、地域の皆さまに丁寧に説明を行うとともに、周辺の環境保全にも十分に配慮して進めています。

2023年度の開通に向けて整備を進めている新名神高速道路の八幡JCT～高槻JCT間には、雅楽の楽器である

箆簞(ひちりき)に用いられる貴重なヨシが採取され、動植物の生息地でもある淀川河川敷「鶴殿ヨシ原」があります。引き続き外部の専門家による検討委員会を活用し、環境保全と事業の両立を図りながら、建設工事を進めています。

2016年4月に、新名神高速道路の工事現場における橋梁が国道176号に落下した事故では、多くの皆さま方にご迷惑・ご不便、ご心配をおかけしましたが、国道176号の復旧工事が完了し、7月9日に通行止めが全面解除となりました。また、工事の安全が確認できたことから8月5日に工事を再開しました。



地図訂正作業の現地調査



鶴殿ヨシ原(川の右側一帯)

日本の新しい大動脈、新名神高速道路の開通で 人とモノの流れを変えていきます

名神高速道路は1963年の開通以来、日本の産業と社会を支えてきました。新名神高速道路はこの日本の大動脈を多重化し、新東名高速道路とともに三大都市圏を結び、移動時間の短縮化、重大事故や災害時の代替ルートの確保、車両通行の円滑化などの社会的使命があります。

そうした期待に応えられるよう、引き続き社外意見も取り入れながら事業を推進していきます。

事業評価監視委員会からの主な意見 (2014年12月3日実施)

- 新名神高速道路(近畿自動車道 名古屋神戸線)は国土軸の一部として広域的な高速道路ネットワークを形成し、リダンダンシー機能[※]の強化や多量の物流を担うなど、当該道路の整備の必要性は非常に高い。
- 中国自動車道や名神高速道路では多くの渋滞が発生している状況にあるが、新名神高速道路の整備により、それらの渋滞が大きく緩和されることが期待される。
- 関西文化学研都市での研究材料をSPRING-8がある播磨科学公園都市に運んで分析するなど、科学技術分野の発展のためにも新名神高速道路の早期整備が必要である。

※ 自然災害等に備え、あらかじめネットワークを多重化するなどして、一部区間の途絶が全体の機能不全につながらないようにすること

社員コメント NEXCO西日本

地域の皆さまと一体となって 事業を推進しています

地域の皆さまおよび関係自治体の方々には、日頃から新名神高速道路事業へのご理解・ご支援をいただきありがとうございます。



新名神大津事務所
所長
赤松 邦康

当事務所は、大津JCTから滋賀・京都府県境までの12.2kmの建設事業を担当しております。現在、懸案事項であった地図訂正作業[※]および幅杭打設もほぼ完了したことから、本格的に用地取得に着手し、あわせて本工事の事前準備として、工事用道路の整備にも取り組まれているところです。特に新名神大津スマートIC・SAの利活用については、地域の皆さまや行政機関からの関心が高く、事業に対する期待を感じております。

そこで当事務所では、沿線の特産品やご当地グルメ、観光地やイベントに当事業の進捗状況を紹介した広報誌を発行するとともに、地元のイベントに積極的に参加し、高速道路事業のPR活動を行ってまいりました。これからも、皆さまのご期待に応えられるよう、安全に留意し、行政・地域と一体となって事業を進めてまいります。

※ 不動産登記や法務局の地図(公図と呼ばれるもの)と実際の土地の形状とを照合する現地調査を行い、地図を訂正する作業

3 地域社会の活性化

特集



イベントスペースで地域の魅力を発信(九州道 基山PA(上り線))

Ticket
周遊エリア乗り放題
ドライブパスの利用件数
2015年度
33,300件



カードを集めると賞品が当たるカードラリー



西日本の名所でもらえる「GO! JIMANカード」



Ticket

おトクな周遊ドライブパスで、観光需要を喚起

お国じまんカードラリー
応募数 **6,900**件
ごじまんスポット **137**カ所
(いずれも2015年度)



外国人向け
周遊エリア乗り放題
ドライブパスの利用件数
2015年度
5,400件

外国人専用のドライブパスを企画



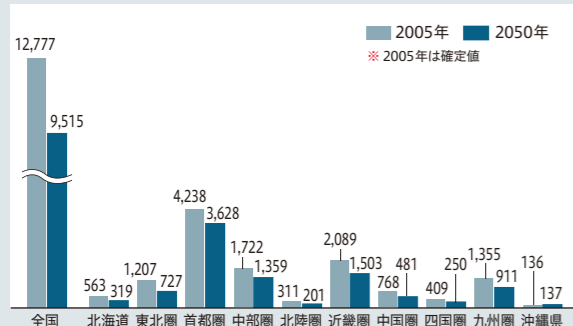
西日本エリアの魅力をさらに高めるために 地域との協働を推進しています

課題

本格的な人口減少時代を迎え、地域の活力を生み出す施策が求められています

とりわけ地方都市では、人口の減少による経済活動の停滞が懸念されています。農林水産業、製造業、サービス業、医療などあらゆる分野で、人や物をつなぎ活力を高める施策が求められています。

各地域別人口変移予想(万人)



出典:国土交通省 国土審議会政策部会長期展望委員会「国土の長期展望」中間とりまとめ概要

地域の観光キャンペーンと協働しながら、おトクな「周遊エリア乗り放題ドライブパス」を実施しています

地域の観光イベントにあわせ、指定された周遊エリアの通行料金が定額になる「周遊エリア乗り放題ドライブパス」を実施しています。

2015年度は5件のドライブパスを企画・実施し、中でも大分・宮崎両県と連携し実施した「大分・宮崎ドライブパス2015」は、当社としては初めて1万件を超えるご利用をいただきました。

さらに2016年度は、地域との連携による企画に加え、

2015年度の周遊エリア乗り放題ドライブパス

ドライブパス	利用件数
大分・宮崎ドライブパス2015	10,600件
ぶらり中国ドライブパス2015	7,600件
四国まるごとドライブパス! 2015	5,400件
Kyushu Expressway Pass 2015	5,400件
京都縦貫道全通記念 周遊ドライブパス	4,000件

熊本地震による影響を受けている九州の観光を支援するために「九州観光周遊ドライブパス」を発売しました。販売開始2カ月で申込件数10万件を突破し、これまでの実績を大幅に更新するなど、大変ご好評をいただいています。

日本を訪れる外国人観光客向けの情報発信・サービスを強化しています

SA・PAで配布する「高速道路ガイドマップ」の外国語版や、外国語版ウェブサイトを作成するなど(いずれも英語・中国語・韓国語の3カ国語で作成)、訪日外国人向けの情報発信を強化しています。また、外部委託の通訳センターを介することで、電話でのお客さまセンターへの問い合わせについても対応できる体制を整備しています。

また、関西国際空港に近い阪和自動車道 岸和田SA(上り線・下り線)などを免税店化したり、訪日外国人のニーズが大きいFree Wi-Fiを149のSA・PAに導入するなどサービスの強化にも努めています。

このほか、九州地区では外国人向けの周遊エリア乗り放題ドライブパス「Kyushu Expressway Pass 2015」を発売し、5千件以上の利用がありました。

社外コメント

東九州自動車道の開通で大分・宮崎へのアクセスが向上し、観光客が大幅に増加しました

2015年3月の東九州自動車道の
大分市～宮崎市間開通を地域観光の促進につなげようと、大分県と宮崎県とで連携しメディアでの宣伝やPRイベント等を行ってきました。両県合同のPRキャラバン隊を結成し、北九州や中国・四国からの観光客をメインターゲットにテレビ、ラジオ、雑誌、インターネットなど31の媒体で両県の魅力を紹介しました。



東九州広域観光推進協議会 会長
宮崎県商工観光労働部観光経済交流局長
武田 宗仁 様

PRにあたっては、NEXCO西日本から同年7月に発売された「大分・宮崎ドライブパス2015」が大きな助けになりました。周辺県の発着エリアからの1往復分と両県の高速度道路の乗り放題が定額料金となり、お得に高速度道路をご利用いただけます。ご利用になったお客さまからは乗り放題や価格設定が好評で、期間中、両県の国内客の宿泊者数はすべての月で対前年比増を記録し、高速度道路開通の効果をよりいっそう実感しました。

当社管内から
コンテストに参加したメニュー

81品



準グランプリ 山陽道 下松SA(上り線)「～やまぐち味百景～」

コンテストの審査風景



審査委員特別賞 長崎道 川登SA(上り線)「九州三都大名碗御膳」



優秀賞 米子道 葦山高原SA(上り線)「～ひるぜんからの贈り物～ひるぜん白蕎麦御膳」



優秀賞 舞鶴若狭道 西紀SA(上り線)「農都篠山今昔味わい御膳」

自治体などがイベントを
実施したSA・PA

31カ所 66回
(のべ893日)



九州道 基山PAでのイベントの様子 2015年11月

九州道 桜島SAでのイベントの様子 2015年10月

SA・PAのレストランで、地域の食材を活かしたメニューを開発しています

郷土料理や地域の食材を活かしたメニューの開発に力を入れています。2015年度はNEXCO3会社(NEXCO西日本・中日本・東日本)の創立10周年を記念し、3社共同で「SA・PAメニューコンテスト全国大会」を初めて開催しました。NEXCO西日本エリアでは、山陽自動車道 下松SA(上り線)のエントリーメニュー「～やまぐち味百景～」が準グランプリを受賞しました。

今後も、その土地ならではの魅力を持つ新しいメニューの開発に取り組んでいきます。

地域の観光資源や特産品をPRするイベントスペースを展開しています

自治体などが主催する観光PRや特産品の試行販売など、地域のプロモーションの場としてSA・PAの店舗前面などのスペースを提供しています。2015年度は当社管内のSA等で66回のイベントが開催されました。

今後もこうした取り組みを継続することで、地域発展に寄与していきます。

社外コメント

山口県の雄大な自然と伝統を食を通して県外のお客さまに伝えていきます

当レストランでは、遠方からのお客さまに食を通じて山口県の魅力を伝えようと、日頃から地元の食材を使った海鮮丼や煮魚、定食などを提供しております。メニューコンテストには、山口の豊富な食材や豊かな食文化を全国のお客さまに知っていただきたいと思い参加しました。大根と豆腐を煮た郷土料理「けんちょう」や、瀬戸内海の小魚ヘイタロウが丸ごと食べられる「平太郎のパジルオイル漬」などを盛り込んだ「～やまぐち味百景～」は、スタッフが家庭で親しんでいる料理をヒントに仕立てたものです。準グランプリを受賞し、多くのお客さまにご来店いただいておりますが、貴の名に恥じないよう、これからもリーズナブルで美味しいメニューを考えていきたいと思っています。



イーグル興業(株) 下松SA(上り線) 料理長 藤江 輝彦 様

配送時間の短縮、定時性向上により 地方の農水産品のシェア拡大に貢献しています

九州・四国地方では、東九州自動車道や四国地方の高速道路ネットワーク整備により、農水産物の配送時間が短縮されています。これに伴い大阪などの消費地に迅速かつ確実に鮮度の高い魚や野菜を届けることができ、市場のシェア拡大につながっています。

社外コメント

地元農水産業者の声

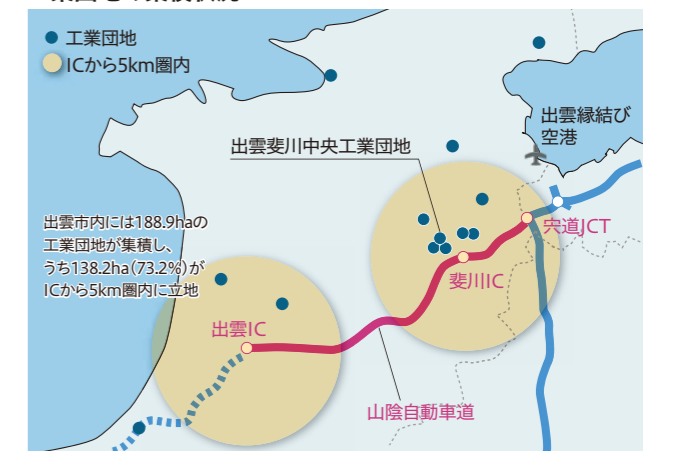
- 市場の開始前に届かないと価格が下がるため、出荷においては時間短縮と定時性確保が重要だが、東九州自動車道開通により、所要時間が短縮されたほか、一般道の渋滞を回避でき定時制が向上した。
- 鮮度の高い魚を市場開始前に確実に届けられるようになったことは、商売上のメリットが大きい。
- 高速道路ネットワークの整備により、配送時間短縮による品質の維持、配送ルートの自由度向上、パイヤー来訪の増加、ドライバーの疲労軽減などさまざまな効果がある。消費地の要求に対応した出荷が可能となり、タイムリーな品ぞろえと出荷量を把握し、適正な価格で販売することができるようになった。

利便性の向上によって企業の立地が進み 雇用の拡大や人口の増加につながっています

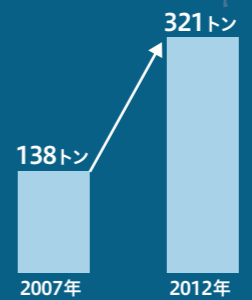
島根県出雲市では山陰自動車道の開通を機に、斐川ICの近くに「出雲斐川中央工業団地」が造成されています。出雲縁結び空港、山陰自動車道の双方に近い利便性が評価され、斐川IC周辺では年間の工場の新・増設件数が道路工事着工前の約2倍に増加しています。

こうした企業進出による雇用拡大を受け、島根県全体で人口減少が続く中、旧斐川町の人口は増加しています。

工業団地の集積状況



大分県産
養殖ブリの取扱量
約2.3倍
(2007年→2012年)

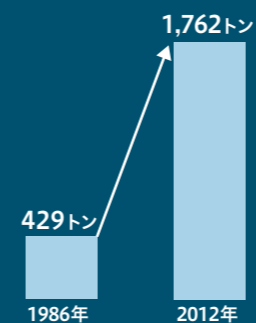


出典：大阪府市場取扱品流通状況調査



高知県産
ナスの取扱量

約4倍
(1986年→2012年)

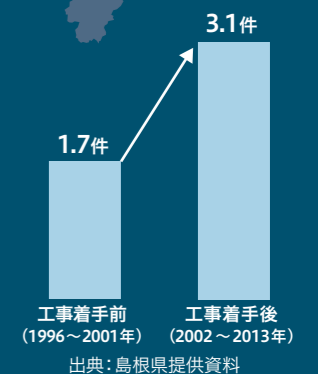


出典：大阪府中央卸売市場年報



島根県における工場の
新設・増設件数

約2倍
(工事着手前→工事着手後)



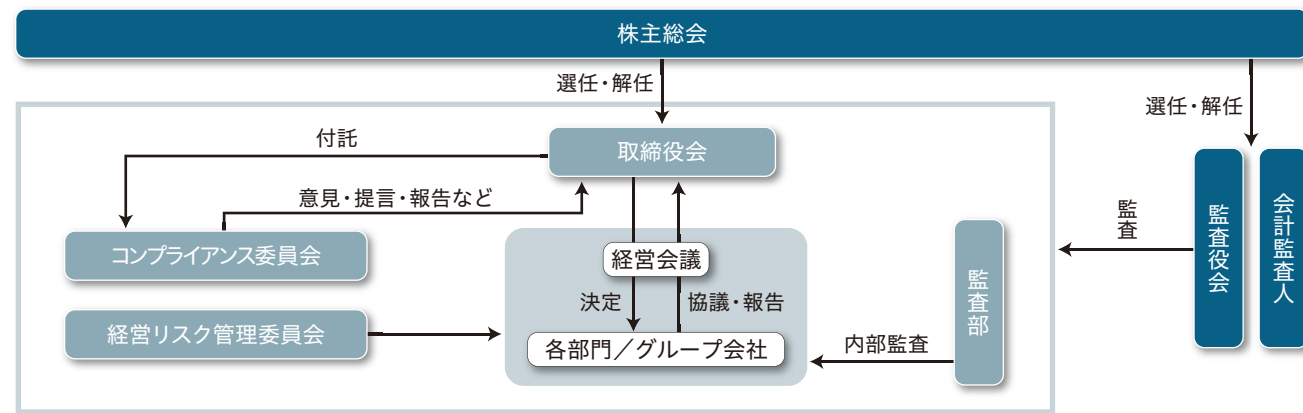
出典：島根県提供資料

コーポレート・ガバナンス(企業統治)

NEXCO西日本では、グループの事業執行における迅速な意思決定、効率的な経営を目指し、ステークホルダーの方々から支持と信頼をいただくために、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることが最重要課題のひとつであると認識しています。

そのため、経営の意思決定、業務執行、さらにはグループガバナンス、情報開示などについて適切な体制を構築し、経営の健全性、効率性および透明性を確保しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



コーポレート・ガバナンス

社外取締役・社外監査役を選任し 経営の健全性・透明性の確保に努めています

当社では、重要な業務執行に関する事項を決議するための取締役会および、経営に関する重要な事項について協議し、情報共有等を行うための経営会議を開催しています。

また、さらなる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすことで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

さらに、コーポレート・ガバナンスを充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するため、コンプライアンス委員会や経営リスク管理委員会を設置しています。

- 取締役会**：取締役と監査役が出席し、原則月1回開催しています。法令および定款で定められた事項、その他重要な業務執行に関する事項を決議しています。
- 経営会議**：取締役と執行役員等が出席し、原則月2回開催しています。経営に関する重要な事項等について協議または報告され、社内の情報共有が行われています。
- 監査役・監査役会**：監査役は取締役会や経営会議などの重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査しています。さらに、監査役会を原則月1回、その他必要に応じて随時開催し、監査実施のために必要な決議などを行っています。社外監査役として、4名を選任しています。

- 監査部**：業務が適法かつ効率的に実施されているか、独立の社内組織として内部監査を実施しています。
- 会計監査人**：期末のみならず期中においても監査を実施し、会計の適正さを確保しています。

[WEB掲載情報](#) グループ行動憲章／経営改善の推進

コンプライアンス

外部有識者による「社員の契約手続きに係る不正事案再発防止検討委員会」の報告書に基づき、再発防止等の徹底に取り組んでいます

2015年6月から7月にかけて当社の元社員2名が高速度株式会社法違反(収賄)で逮捕・起訴され、2015年11月には有罪判決が下されるという事態が発生しました。

当社では、これを受けて、外部有識者による「社員の契約手続きに係る不正事案再発防止検討委員会」を2015年7月に設置し、事実関係の調査および原因究明に取り組むとともに、2015年11月の同委員会による報告書を踏まえ、コンプライアンス推進体制の整備、発注者綱紀保持の徹底、少額契約手続きの改善を柱とする再発防止策の徹底に取り組んでいます。

なお、本収賄事件を起こした元社員2名については、2015年8月に懲戒解雇処分としました。

外部委員を含むコンプライアンス委員会を設置し 公正で透明性の高い企業活動を実践しています

グループ行動憲章のもと、外部委員(3名)を含むコンプライアンス委員会を設置し、外部の知見を活用して公正かつ透明性の高い企業活動の実践に努めています。同委員会は原則年2回開催することとしており、当社グループ全体のコンプライアンスの向上に向けた意見やアドバイス等をいただいています。なお、2015年度は、収賄に係るコンプライアンス違反事案が発生したことに伴い、4月、8月、10月および11月の計4回開催しました。

コンプライアンス推進本部と責任者を置き 計画の実施・検証・評価に取り組んでいます

当社は、コンプライアンスをすべての事業遂行の基盤として位置づけ、本社、支社、事務所の各組織にコンプライアンス推進本部(本部長：各組織の長)およびコンプライアンス推進責任者(総務部長等)を設置しています。

経営交流会議を中心にグループ全体で コンプライアンス向上に取り組んでいます

2015年度は、すべてのグループ会社の社長が出席し、年2回開催する「経営交流会議」において、グループとしてコンプライアンスの向上を目指すための議論や情報交換を行いました。

加えて、毎年10月をNEXCO西日本グループ企業倫理月間と定め、社員のコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。2015年度は、コンプライアンスを社員一人ひとりの心に直接訴えかける現実感ある問題として浸透させるため、コンプライアンス経営の組織展開について当社社長や各グループ会社役員等から社員に向けてメッセージを発信したほか、外部講師を迎えて職位階層別の各種研修会をグループ全体で開催しました。

[WEB掲載情報](#) コンプライアンス通報・相談窓口の設置

リスクマネジメント

グループ全体でリスクマネジメントに 取り組んでいます

各事務所においては、現場業務に関連するリスクの洗い出しなど自立的にリスクマネジメントに取り組み、経営リスク管理委員会においては、グループ全体のリスクの評価・見直しや、予防措置ならびにリスク発

現時の対応状況の検証を行うなど、継続的なリスクマネジメント活動を推進しています。

[WEB掲載情報](#) リスク管理体制

情報セキュリティ

情報漏えい・システム障害対策とともに 情報セキュリティ意識の向上に取り組んでいます

情報漏えいを「しない」「させない」企業風土と安全なIT環境を確立するため、ソフト面の対策として「個人情報流出させない5か条」を各職場やパソコン画面に掲示し社員の意識向上に努めるとともに、ハード面の対策として、利用者認証、アクセス制限などの不正アクセス対策およびウイルス対策、外部メール誤送信対策を強化しています。

また、社内ネットワーク回線・機器のバックアップ体制を整えるなど、システム障害への対策も徹底しています。

[WEB掲載情報](#) 情報セキュリティ推進体制

人権の尊重

人権問題啓発推進会議を設置し 毎年、活動を見直しています

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を制定して、当社グループが一丸となって人権尊重・人権啓発に取り組むことを宣言しています。また、本社および支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を統括するとともに、次年度の活動計画を審議しています。

2015年度は社員研修や社内報(年5回)、メールマガジン(人権週間に集中的に5回)の発行を通じて、人権啓発活動に取り組みました。また、グループ会社に対しても、出張研修などを実施しました。

2016年度も引き続き、活動を継続していきます。

[WEB掲載情報](#) 人権問題啓発推進の基本方針／啓発活動



お客さま

交通安全の取り組み

交通安全対策の推進や24時間365日の道路巡回などを通じて、お客さまの安全・安心の確保に努めています。

交通安全の確保

交通安全対策アクションプラン

ハード・ソフト両面の交通安全対策を継続しています

2011年度に策定した「交通安全対策アクションプラン」を軸に、ハード・ソフト両面から交通安全対策を強化しています。

ハード面では、視認性向上・速度抑制などの対策を、2014年度末までに管内334カ所で完了しました。さらに2015年度に管内20カ所で追加対策を実施しました。ソフト面では、ETC2.0などのプローブ情報※から車両の挙動や速度を算出し、ヒヤリハット箇所の抽出や旅行時間の精度向上などにつなげ、より高精度な情報提供に向けて取り組みを継続しています。

※ 自動車の動きをセンサーの感知から発信される情報により、交通流動や車両挙動、気候や路面状況までをモニタリングすることで得られる車両が走行するすべての道路交通情報。

逆走対策

関係機関と連携して、2020年までに高速道路での逆走事故ゼロを目指しています

合流部でのUターンを抑制するため、注意喚起の矢印板やゼブラゾーンへのラバーボールの設置、路面に進行方向を示す矢印を標示するなどの対策を実施しています。また、本線からSA等への流入ランプには、逆走した車両から見える注意喚起看板の設置を進めています。2015年度は、24カ所で矢印路面標示の大型化や注意喚起看板の視認性の向上(高輝度化)等の対策を実施しました。また、ポスターやチラシ、交通安全キャンペーンを活用した啓発活動も実施しています。



一般的なIC、JCT、休憩施設の分合流部での対策例(矢印板・ラバーボールを設置し、路面に大型矢印を標示)

WEB掲載情報
さまざまな交通安全対策/
DRIVE&LOVE

高速道路交通の管理

高速道路のパトロール

24時間365日の高速道路巡回を通じて道路の安全と円滑な交通を確保しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、NEXCO西日本グループのパトロール会社が、「交通管理隊」を組織し、高速道路を24時間365日体制で巡回しています。交通管理隊が収集・把握した渋滞の発生状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通してドライバーに迅速に発信しています。

また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの安全で快適なドライブをサポートしています。



管理隊の巡回

WEB掲載情報 法令違反車両の取り締まり

社員コメント

NEXCO西日本パトロール中国

高速道路上の異常の早期発見、迅速な処理に努めています

業務にあたっては、常に変化する天候や路面、交通の状況を的確に把握し、交通事故・故障車両・落下物などの異常を早期に発見し、迅速に対応することに努めています。異常があった時には、通行の妨げとなるものがあればすみやかに排除するとともに、管制センターと連携しながらお客さまを安全な場所へ避難誘導し、二次事故を防止することも、私たちの重要な任務です。



千代田基地
隊長
友田 誠治

高速道路をご利用の際は、交通ルールの順守とゆとりのある運転をお願いいたします。またあわせて、道路の異常、緊急事態を発見した時は、安全な場所から道路緊急ダイヤル(#9910)で情報提供をお願いします。

今後も、安全・安心・快適な道路空間の維持に努めていきます。

快適な高速道路空間の提供

交通渋滞の緩和や正確・迅速な道路交通情報の提供などに取り組むとともに、CS(お客さま満足)の継続的な改善を図っています。

交通渋滞の緩和

交通容量の確保

ソフト・ハード両面の渋滞緩和対策を推進しています

高速道路の渋滞を緩和するため、ほかの道路とのネットワーク形成による交通の分散や車線の増設、文字情報等の提供による速度低下抑制など、ソフト・ハード両面の対策に取り組んでいます。

阪和自動車道(海南IC~有田IC間)車線拡幅工事



WEB掲載情報 一部拡幅工事・ネットワーク強化/
渋滞予測情報の提供/集中工事の実施

道路交通情報

道路管制センター

情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、併設されている管区警察局高速道路管理室とともに、24時間365日体制で、安全運転に必要な情報の収集・発信や道路設備の監視・制御を行い、お客さまの安全確保に努めています。

道路管制の流れ



WEB掲載情報 ウェブサービス「アイハイウェイ」

お客さまサービスの向上

CS(お客さま満足)の向上

CS向上のため、研修やCS推進大会を実施しています

当社グループでは、CS意識向上研修やCS推進大会などを実施し、社員のCS意識向上に取り組んでいます。2015年度は、新入社員と初級管理職を対象にしたCS向上研修を実施するとともに、CS推進大会では、各支社から選出されたグループ会社等のCS優秀事例の発表・表彰や現地におけるCS活動推進のためのグループ討議を実施しました。

また、グループ社員などが部署や立場を超えて対話することで、それぞれの気づきを深めることを目的としたCS交流会を初めての試みとして3事務所で実施しました。



CS交流会の様子
(徳島高速道路事務所)

WEB掲載情報 料金所での接客サービスの向上/
ETCの利便性向上/CS推進本部会議/お客さまセンター/
お客さまの声の状況/お客さまの声対応プロセスの明確化/
お客さまの声による改善状況の紹介と信頼関係の強化/
CS推進オピニオンリーダー意見交換会

社員コメント

NEXCO西日本サービス関西

「チームワーク力・現場力」(チェンジ&チャレンジ)をスローガンにCSの向上を追求していきます

お客さまに安全・安心を提供するため、ETCレーンの監視、料金精算機のオペレーションに加え、各種お問い合わせへの対応など、高速道路情報の発信源としての役割の強化にも取り組んでいます。特に、2014年に舞鶴若狭自動車道が全線開通し北陸自動車道と直結した影響で、ICを誤って通過したり、JCTの分岐で経路を誤ってしまうお客さまが増えたため、丁寧な対応に努めています。また、料金に関するお問い合わせに迅速にお答えできるよう全路線料金早見表を作成するなど、サービスの向上にも取り組んでいます。



舞鶴西料金ステーション
大江 和善

今後も、料金所のスローガンに掲げている「チームワーク力・現場力」(チェンジ&チャレンジ)を追求し、よりよいお客さま対応を心がけていきます。



お客さま

SA・PAの お客さま満足施設への変革

施設の改善や新たなサービス、くつろぎ・楽しさ・にぎわいをお客さまに提供すると同時に、地域からも愛され、喜ばれるSA・PAを目指します。

新サービスの実施

「モテナス」オリジナル商品の開発

NEXCO西日本グループの直営店舗で オリジナルメニューを開発しています

「モテナス」とは、お客さまを“おもてなし”するという想いをこめた当社グループが運営する店舗ブランドのことです。

お徳感のある「モテナスランチAうどんセット」(780円)やボリューム感のあるお得な「モテナスランチB」(880円)などのオリジナルメニューを開発しています。

2015年度は、季節メニューなどを考案・販売し、お客さまにご好評いただきました。

2016年度も、「モテナスランチA」のリニューアルや新たな季節メニューの販売を行うなど、お客さまにさらに喜んでいただけるような取り組みを積極的に展開していきます。

また、お急ぎのお客さまが素早く商品を購入できるような商品陳列とするなど、分かりやすい店舗づくりを心掛けています。



モテナスランチA
うどんセット



山陽道 淡河PA(上り線)

WEB掲載情報 SA・PAメニューコンテスト・全国大会

ドライブの拠点機能

インフォメーション

海外からのお客さまへの対応を充実させています

SA・PAでは、海外のお客さまにも安心して高速道路をご利用いただける環境整備に努めています。インフォメーションを設置している67カ所のエリアで、外国語対応の地図(英語・中国語・韓国語)の配布や三者間電話通訳(英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語)サービスを活用したご案内を行っています。

2015年度は、ご案内に際し、タブレット端末にインストールした翻訳アプリケーションを積極的に活用しました。また、12月には日本政府観光局(JNTO)の外国人観光案内所カテゴリーI※に認定されました。

2016年度は、訪日外国人旅行者の増加に対応し、外国人観光案内所としてのインフォメーション機能向上を目指すため、JNTOが主催する研修会へのインフォメーション案内員の参加を予定しています。今後も、さらなるレベルアップに取り組んでいきます。

※ 常駐ではなくとも何らかの方法によって英語での対応が可能であり、地域の案内を提供している案内所。



名神高速道路 大津SA(下り線)
「バヴァリエびわ湖大津」



外国語パンフレット(英語・中国語・韓国語)



海外からのお客さま向け特産物コーナー

関連情報

⇒23ページ:特集3「地域社会の活性化」

WEB掲載情報 Wi-Fi サービス/シャワーステーション



社会

社会基盤である 高速道路の整備と長期保全

高速道路ネットワークの形成と高速道路の計画的な保全を同時に進めることで、地域の発展と暮らしの向上を目指します。

高速道路ネットワークの整備と機能向上

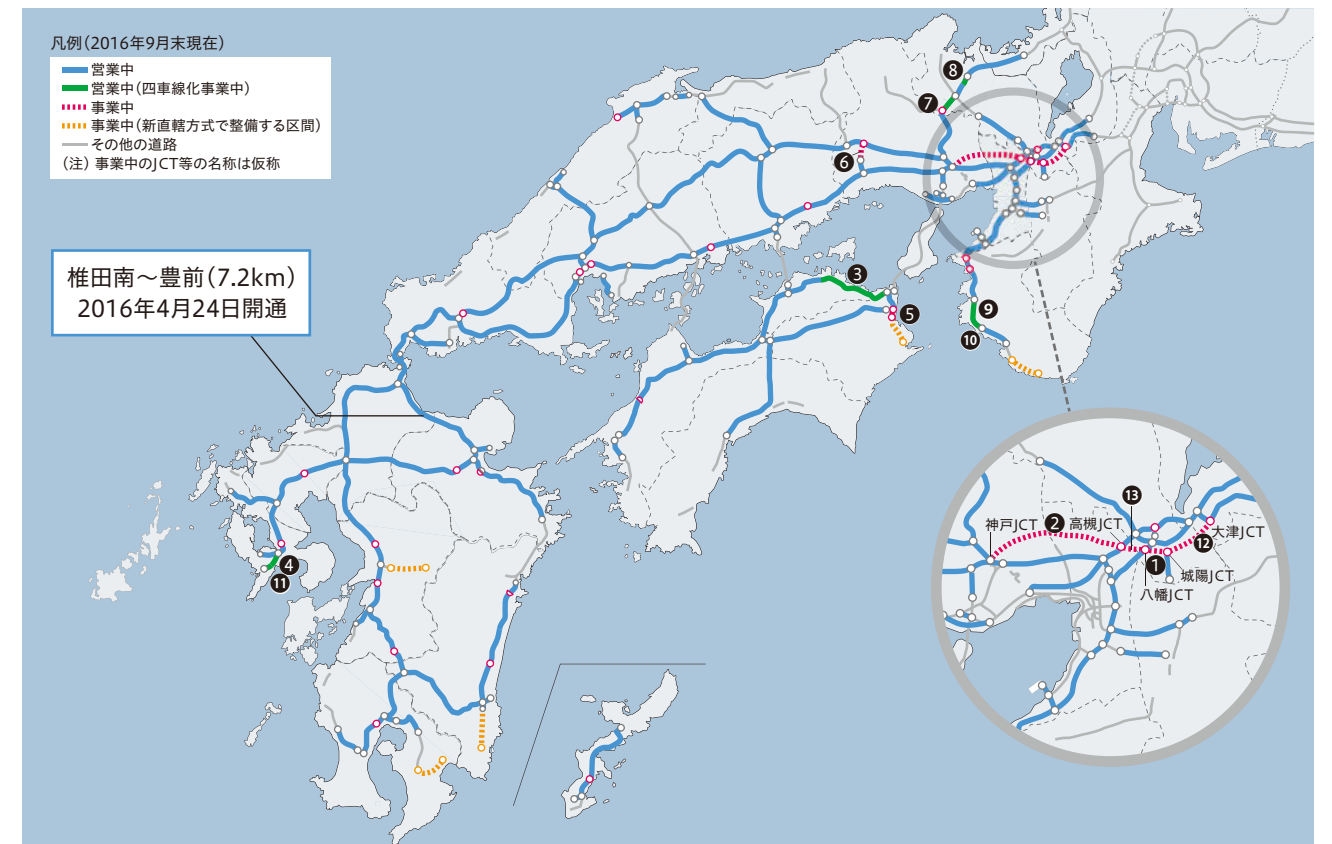
新たな高速道路ネットワークの整備

各地域を結び、自動車交通の混雑緩和や 地域間の連携強化に寄与しています

高速道路ネットワークの整備は、自動車交通の混雑緩和や、地域間の交流・連携の強化につながります。NEXCO西日本は、高速道路機構と締結した協定に基づき、高速道路ネットワークの整備促進に努めています。

2015年度は新たに開通した区間はありませんでした。引き続き、2016年度以降も新規区間などの整備を進めていくことで、広域的なネットワークの形成によるアク

高速道路ネットワークの整備状況



セスの向上や所要時間の短縮を実現し、観光誘客や地域産業の活性化、物流事業等の効率化、救急医療活動など社会サービスの効率化に貢献していきます。

今後の開通予定※1

区間	延長	年度
① 新名神 城陽JCT・IC～八幡JCT・IC	4km	2016年度
② 新名神 高槻第一JCT～神戸JCT※2	40km	2018年度
③ 高松道 鳴門IC～高松市境(四車線化)	52km	
④ 長崎道 長崎芒塚IC～長崎多良見IC(四車線化)	8km	
⑤ 徳島道 徳島東IC～徳島JCT	4km	2019年度
⑥ 播磨道 播磨新宮IC～山崎JCT	12km	2020年度
⑦ 舞鶴若狭道 福知山IC～綾部IC(四車線化)	10km	
⑧ 舞鶴若狭道 綾部PA～舞鶴西IC(四車線化)	5km	
⑨ 湯浅御坊道路 御坊IC～有田IC(四車線化)	19km	2021年度
⑩ 阪和道 御坊IC～印南IC(四車線化)	10km	
⑪ 長崎道 長崎IC～長崎芒塚IC(四車線化)	3km	
⑫ 新名神 大津JCT～城陽JCT・IC	25km	2023年度
⑬ 新名神 八幡JCT・IC～高槻第一JCT	10km	

(注) 事業中区間のIC・JCT名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく

※2 会社努力目標は2017年度

高槻第一JCT～高槻第二JCT(2.5km)も同時に事業を進めています

関連情報

⇒19ページ:特集2「高速道路網の整備」

WEB掲載情報 スマートICの整備



社会

高速道路インフラの健全性の確保

高速道路の長期保全

大規模更新・大規模修繕計画を着実に実行していきます

高速道路ネットワークの機能を長期にわたって健全に保つため、高速道路本体構造物をリニューアルする大規模更新や、予防的な観点からの大規模修繕を実施します。

2015年3月には、計1.1兆円の大規模更新・大規模修繕を実施する更新計画について国土交通省から事業許可を得ました。橋梁の床版を耐久性の高いプレキャストPC床版に取り替える工事や、トンネル構造の安定性を向上させる逆アーチ状のインバート(底部)を設置する工事などの機能保全や長寿命化の技術開発を実施しています。

NEXCO西日本の更新計画

分類	区分	項目	延長	事業費
大規模更新	橋梁	床版	98km	5,669億円
		桁	12km	965億円
	小計		6,635億円	
大規模修繕	橋梁	床版	111km	456億円
		桁	37km	560億円
	土構造物	盛土・切土	13,820カ所	2,463億円
	トンネル	本体・覆工	46km	1,107億円
小計		4,586億円		
合計			11,221億円	

道路構造物の点検・管理

「保全事業システム推進五箇年計画」のもと業務サイクルを確実に実施しています

老朽化の進行に対応するため、2013年度から開始した「保全事業システム推進五箇年計画」に基づき、橋梁等道路構造物および標識等道路附属物の点検とともに第三者被害防止対策に取り組んでいます。

具体的には、橋梁やトンネルなどの道路構造物からのコンクリート片のはく落によって事故が想定される箇所では、コンクリート面へ繊維シートを張り付けるなどの対策を実施しているほか、新設の橋梁においても、建設初期段階から対策することで、はく落防止を図っています。

このほか、高速道路をまたぐ跨道橋(OV)の点検・補修にあたっては、地方公共団体、鉄道事業者等の管理者と情報を共有し、構造物の老朽化対策を促進するための協議会を設立し、計画的に点検・補修を実施するために協議調整を重ねています。

関連情報⇒15ページ:特集1「高速道路の点検・再生」

WEB掲載情報 道路附属物の更新・修繕

新技術の導入・研究開発による業務の効率化

高耐久化技術の開発

維持管理費用の低減や安全性向上につながる超高耐久橋梁を開発しています

塩害による構造物の劣化やコンクリート片のはく落を防止するために、三井住友建設(株)と共同で、PC鋼材や鉄筋を一切使わない超高耐久橋梁を研究開発しています。この研究は、橋梁構造物に腐食の可能性のある材料を使用せず、錆びない新素材を採用することによって、維持管理費用を低減させ、安全性を向上させることを目的としています。

これまでの材料試験や梁の載荷実験によって十分な強度特性を有していることを確認しており、2015年度は、長崎自動車道長崎多良見IC～長崎芒塚ICの四車線化事業に伴う工事用道路の一部として実証橋を建設しました。今後、工事用道路として運用し、全体挙動をモニタリングするとともに、載荷試験を行って構造全体の安全性を確認する予定です。

超高耐久橋梁「Dura-Bridge」の構造



WEB掲載情報 産学連携の推進/新技術による点検・補修

災害対応力の強化

災害に強い道路づくりを進めるハードと、グループを含めた地域・他機関との連携強化によるソフトの両輪により、防災・減災を図ります。

災害に強い高速道路づくり

耐震補強

災害発生時の重要なインフラである高速道路が継続して利用できるよう、対策を進めています

高速道路は、地震などの自然災害の発生時に、人命救助や災害応急対策に必要な物資や資機材などを広域的

に緊急輸送するための、極めて重要なインフラと位置付けられています。

当社では、災害に強い道路を目指して、橋脚に繊維シートや鋼板を巻き付けるなど、靱性・強度を高める耐震補強を実施してきました。今後、さらなる耐震補強を推進していきます。



耐震補強工事を計画的に実施しています

斜面災害防止技術の研究開発

無線センサを用いた検知技術の実用化を進めています

高速道路上での地盤災害の中でも突出して多いのが、降雨による斜面の崩壊です。そこで当社では、斜面の含水量や地下水位などをモニタリングするシステムの開発と、斜面の崩壊メカニズムの解明に取り組んでいます。

2015年度は、継続して管内5カ所で土壌水分などを観測し、降雨や土質条件の違いが地盤の安定・不安定化に与える影響について分析を行いました。さらに、新たに2カ所の斜面にシステムを導入し、一般回線を使用しない自社回線(Wi-Fi)を活用した通信を試行し、可用性向上のため改良を進めています。さらに、崩壊メカニズムの解明に関して、大阪大学と共同で研究を進めることになりました。

2016年度も、引き続き研究開発を推進していきます。

NEXCO西日本における斜面モニタリングの将来像



WEB掲載情報 集中豪雨対策

災害に強い組織・連携ネットワークの構築

防災体制

道路機能の迅速な回復に努めています

高速道路の早期復旧にあたっては、情報の収集・発信拠点となる「災害対策本部」を災害規模に応じて設置し、本部を中心にグループ会社も含め指揮統制の取れた体制を構築することが重要です。そこで、訓練等によって得られた課題についての対策を講じるなど、災害対応計画を継続的に見直しています。2015年3月には、防災体制発令基準の修正や災害対策基本法改正に伴う車両移動等に対する実施業務を追記するなどの見直しを行いました。

2015年度は、計画に基づいて、2014年度に配備した衛星携帯電話の一部について、社屋内でも使用可能となるよう屋外アンテナの整備を実施しました。

2016年度以降については、自営通信網等のバックアップシステムの推進や管制機能の強化、グループ会社や関係機関等との連携強化を図っていきます。

地域・他機関との連携

包括協定・災害協力協定・連携協定に基づく連携強化を図っています

地域住民の安全・安心の向上を図るため、地震など大規模災害時の相互協力を定めた災害協力協定を、2012年5月末までに西日本の全24府県と締結しています。

また、大規模災害時の迅速な緊急交通確保と連携した被災地支援を目的に、陸上自衛隊と連携協定を締結するとともに、具体的な連携内容の調整、合同訓練等に取り組んでいます。加えて、自衛隊が保有するヘリコプターからの映像を活用する協定を締結するなど、災害時に備えた連携強化も進めています。

自治体と協定を結んだ一時避難場所

年月	自治体	一時避難場所
2011年8月	徳島県・徳島市	徳島道 徳島IC～鳴門JCT
2012年4月	西都市・新富町	東九州道 西都IC付近
2012年7月	高鍋町	東九州道 高鍋IC～都農IC
2012年7月	須崎市	高知道 須崎東料金所
2012年9月	観音寺市	高松道 豊浜SA
2012年9月	日向市	東九州道 日向IC～都農IC
2012年11月	門川町	東九州道 門川IC
2013年11月	金武町	沖縄道 伊芸SA
2014年2月	徳島市	徳島道 徳島IC
2014年2月	徳島県・徳島市・鳴門市・松茂町・北島町	徳島道 徳島IC～鳴門JCT
2014年9月	みなべ町	阪和道 みなべIC
2015年3月	鳴門市・松茂町	徳島道 松茂PA

防災訓練

関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています

地震など自然災害の発生時に迅速かつ的確な対応ができるよう、グループ全体や関係機関と計画的に防災訓練を実施しています。

2015年度は、2014年度に引き続き関係機関と連携した実働訓練を実施しました。毎年防災の日に実施している総合防災訓練は、本社・四国支社合同で実施。本社から64人、四国支社から194人が参加し、各種の訓練に取り組みました。

また、津波被害が想定される地域では、自治体や住民の皆さまなどと共同で、津波一時避難訓練を行っています。2015年度は徳島自動車道や高知自動車道、東九州自動車道、阪和自動車道の沿線地域で実施しました。

2016年度も引き続き、関係機関と連携した訓練を実施しながら、課題抽出および改善等に取り組み実効性のある体制の構築に取り組んでいきます。



2016年の関係機関との訓練の様子

高速道路災害図上訓練(ハイウェイDIG)

より効果的な訓練により
災害対応力の向上を図っています

当社グループでは、関係機関との連携強化などを目的に、参加者(プレーヤー)が道路地図を囲みながら災害時の対応策を検討する高速道路災害図上訓練(ハイウェイDIG)を実施しています。

例えば四国支社管内では、2010年度から2015年度までに25回開催し、のべ600名以上がプレーヤーとして参加しており、関係機関にも根付いた取り組みとなっています。今後は、テーマを「逆走車両への対応」などに絞り、より効果的な訓練の実施を予定しています。引き続き、さらなる連携および災害対応力の強化を図っていきます。



四国支社管内関係者による
ハイウェイDIGの様子

WEB掲載情報 南海トラフ巨大地震への対策強化

社外コメント

津波避難場所の設置により、
地域住民の防災意識も向上しています

北島町では、NEXCO西日本によって津波避難場所が設置された2014年から、同社との合同防災訓練をのべ4回実施しています。訓練には、役場関係者に加え、約100名の住民が参加。津波避難場所についても、避難経路や所要時間を確認しました。



徳島県北島町役場
危機情報管理室 室長
藤高 繁利 様

住民からは、「今まで周囲に津波避難場所がなかったので不安だったが、万が一の備えができ安心している」という声が寄せられました。また、避難場所が設置されたことで地域住民の防災意識も向上し、今後は、自主的な定期防災訓練も計画されています。

町の防災のさらなる強化に向け、NEXCO西日本とは今後もいっそうの連携強化を進めていきたいと考えています。

保有している技術・
ノウハウの市場展開

これまでグループ内で培ってきた技術力やノウハウを活かし、国内外で事業を展開します。

海外への事業展開と国内への応用

米国での橋梁非破壊検査事業

橋梁点検業務の受注実績を積み重ねています

2011年1月、当社は米国に、NEXCO-West USA, Inc. を設立し、インディアナ、フロリダ、オハイオ、メリーランド、ペンシルバニア、ヴァージニア他の各州にて橋梁非破壊点検を7件受注するなど、州道路管理者からの受注実績を着実に積んできました。

特に、赤外線カメラシステムなどを使用した橋梁コンクリート床版の非破壊点検は、目視や打音などに頼る従来の手法よりも、客観的かつ効率的な点検方法として、連邦道路庁や各州の道路管理者から注目されています。

WEB掲載情報 海外事業の概要/
インドネシアでの事業展開/事業拡大に向けた各種調査/
国際貢献活動を基礎としたコンサルティング事業

技術・ノウハウを活用したさまざまな事業

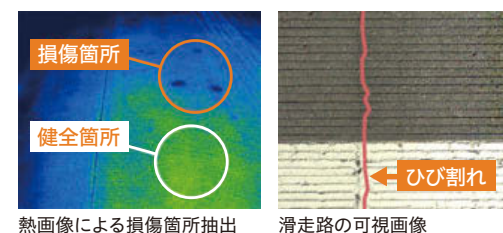
点検技術を活かした事業展開

自社システムを活用し、管内高速道路以外でも
点検・調査事業を行っています

NEXCO西日本エンジニアリング四国では、高松空港の滑走路の大規模補修の事前調査にあたり、Jシステムを使った舗装の層間はく離調査を実施しました。

飛行機の安全な運航に欠かせない滑走路を高性能赤外線カメラで撮影し、ブリストリング※による破損の前兆であるはく離領域を特定するとともに、可視画像を用いてひび割れの状況も整理しました。なお、滑走路は道路と違い幅が60mと範囲が広いので、GPSを利用し自動レイアウトで展開図を作成できるようにするなど、ソフトを改良することで省力化を図っています。

※ 太陽の日射により舗装体温度が高くなる影響で、内部の水分が蒸発し舗装表面が膨れる現象。



WEB掲載情報 ノウハウを活かした業務受託/
グループの資産・人材を活用した地域貢献/一般自動車道の
運営事業への参画/グループで育てた環境技術で社会に貢献

社外コメント

NEXCO西日本との共同研究が、
米国の学会にもよい影響を与えています

私は、セントラル・フロリダ大学で構造および橋梁工学、特に構造物の健全度モニタリングの研究を実施しています。2012年からは、NEXCO西日本との共同研究として、画像や赤外線技術を用いたインフラの診断技術について研究しています。



セントラル・
フロリダ大学 教授
ネカティ・
チャットパス 様

これまで、大学にて屋内外での実験や、供用中のフロリダ州管轄の高速道路の橋梁等を用いた実橋試験を行ってきました。こういった我々の共同研究は米国内へも非常によい影響を与えており、フロリダ州政府の全体会議の場においても、共同研究を行っている診断システムの活用方法についての議論がなされました。また、研究成果は論文にも取りまとめられ、欧米およびアジアの主要な国際会議等でも発表されています。

高速道路を通じた地域活性化

自治体や地方公共団体等と連携し、高速道路を通じた地域活性化に取り組んでいます。

高速道路を通じた地域活性化

自治体と連携した観光キャンペーン

観光誘致活動を広域展開する新たなツールを
地方公共団体等に提供しています

当社は、事業エリア内の24府県・5政令市と、地域社会の活性化や高速道路の利用促進などを目的とした「包括的相互協力協定」を締結しています。

この協定に基づき、2014年度から高速道路ネットワークを活用したドライブキャンペーン「お国じまんカードラリー」を実施しています。

2015年度は、西日本の22府県が選ぶ「ごじまん」の観光スポット(全137カ所)に「GO! JIMANカード」を設置した結果、約6,900名の方からご応募をいただきました。

2016年度は、さらに新たな地域の魅力を発見できるカードラリーをめざし、スポットを100カ所以上入れ替え、全142カ所を対象にキャンペーンを実施しています。

関連情報⇒23ページ:特集3「地域社会の活性化」

SA・PAの活用

一般道からもSA・PAに立ち寄れる出入口
「ウェルカムゲート」を整備するとともに
地域の方向けのイベントを実施しています

一般道からSA・PAに自由にお立ち寄りいただける「ウェルカムゲート」を、2015年度までに66カ所整備しました。近隣の方々を対象に、バラの剪定講習会やお子さま向けのパン教室などのイベントを開催している店舗もあり、ご好評いただいています。

また、車いすをご利用のお客さまも快適に通行できるユニバーサルゲートを、2015年度までに34カ所整備しています。



第二神明道路 明石SA(下り線)



投資家・国民の皆さま

透明性の高い経営の推進と着実な債務の返済

外部評価による透明性確保

事業評価監視委員会による外部評価を受け事業の効率性・透明性を向上させています

NEXCO西日本では事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。毎年1回開催し、当社の高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。委員会の開催状況はウェブサイトでも公開しています。

低利率かつ安定的な資金調達

道路建設資金の安定的な調達に努めています

高速道路事業の遂行に必要な資金については、社債の発行や民間金融機関からの借入等によって調達しています。建設から管理まで長期にわたる事業となるため、低利率かつ安定的に調達できるよう努めています。

関連情報⇒4ページ:
「高速道路機構の債務残高」

WEB掲載情報 事業評価監視委員会の開催状況

不正通行対策

基本的な取り組み

防止対策や啓発の強化によって不正通行件数は年々減少しています

有料道路事業は、道路をご利用されるすべてのお客さまから公平に通行料金をご負担いただくことで成り立っています。

レーンを強行突破するなど不正に通行料金の支払いを免れる行為(不正通行)は、公平性の原則を揺るがす犯罪行為です。

そこで当社では、毎年「不正通行対策強化月間」を設けて、警察との合同取り締まりをはじめとした各種取り組みを実施しています。また、ETCの利用方法を含めた不正通行事前防止の啓発活動も行っています。こうした取り組みによって、不正通行件数は年々減少しています。

今後も「不正通行は断固許さない」という毅然とした態度で、悪質な不正通行の分析調査に注力するとともに、警察の捜査にも積極的に協力し、その撲滅を目指していきます。

ステークホルダーとの対話

社長による定例記者会見

毎月の開催を通じて事業理解の促進に努めています

当社グループの経営状況、建設・管理、関連事業等への取り組みに対する理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、情報発信に努めています。



記者会見の様子

WEB掲載情報
投資家・金融機関の皆さまとの対話/地域住民の皆さまとの対話/現場見学会「なるほど! 高速道路発見」

メディアを通じた情報発信

ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトの全面リニューアルを行いました

お客さまから「情報量が多い」「必要な情報が探しにくい」とのご意見をいただいたことから、2015年度は、知りたい情報に早くたどり着けるよう、各ページの閲覧分析を行い、お客さまのニーズが高い情報を厳選するなど利便性向上を図りました。

料金・経路検索サイトでは、検索結果に新たにETC料金順を設けたほか、検索ルート内にあるSA・PAの施設情報の充実や事故が多発する危険箇所を表示し、お客さまが安全・快適なドライブをお楽しみいただけるよう改良しました。さらに、英語サイトに加え、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、韓国語の4言語のサイトを構築し、外国人のお客さま向けサービスの充実を図りました。

今後も、お客さまからのご意見・ご要望や、アンケート結果やウェブサイトの分析結果を踏まえて、お客さまのニーズが高い情報を中心にウェブサイトの改良に努めます。



料金・経路検索結果のイメージ

WEB掲載情報 集中工事情報の広報



お取引先

SA・PAのテナント会社との協働

接客力の向上

接客コンテストを通じ接客力の向上に取り組んでいます

NEXCO西日本グループでは、より高い接客技術を身に付けることを目的に、SA・PAのテナント従業員の方を対象とした接客コンテストを開催しています。このコンテストで優秀な成績を収められた従業員の方は、さまざまな企業の方が参加する日本ショッピングセンター協会主催の接客ロールプレイングコンテストに参加し、接客力とモチベーションのさらなる向上につなげています。2015年度には、6名が参加しました。

2016年度は、NEXCO西日本サービス・ホールディングスにて接客コンテストを開催することとしており、今後も、SA・PAのテナント会社と協働で、接客力の向上に取り組んでいきます。

テナント会社向け研修

お客さまに安全・安心な食事を提供するため食品衛生講習会やアレルギー講習会を実施しています

SA・PAの飲食店などの店舗を利用されるお客さまに、安全・安心な食事を提供することはサービスの基本です。そこで、SA・PA各テナント従業員の食品衛生に関する知識および意識の向上を目的とした食品衛生講習会を、年1回実施しています。

また、2015年度はこのほかにも、お客さまの生命・身体に関わる問題として、メニューへのアレルギー表示の重要性を再認識するとともに、アレルギーに関する知識および意識の向上を目的とした、アレルギー講習会を実施しました。

2016年度においても、継続して実施する予定です。



食品衛生講習会の様子

WEB掲載情報 「地域物産展」の開催/誤給油防止訓練/防犯講習会(不当要求含む)

公正な取引関係

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、競争性・公正性・透明性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取り引きを行っています。

契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保とさらなる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守

発注事務に係る綱紀保持

社内規程を制定し

社会からの信頼を確保できるよう努めています

2015年度に発生した当社の元社員による収賄事件を受け、2015年12月に、発注者の綱紀保持に関する社内規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。

この社内規程には、社員が遵守すべき事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法およびこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。

契約に関する情報公表と

適正な契約相手方の選定手続き

契約の過程および結果について

外部有識者が審議し

ウェブサイト上で審議概要を公表しています

入札や契約の過程、契約内容の透明性を確保するため、各支社に弁護士、大学教授など外部有識者からなる「入札監視委員会」を設置しています。

委員会の審議概要は、ウェブサイトの「調達・お取引」で公表しています。

また、社内においても事業部門から独立した「入札監視事務局」を設置し、工事の発注単位等の事前審査、入札・契約結果に関する事後審査、契約に関するデータ収集・分析を実施しています。

WEB掲載情報 暴力団関係企業等の排除を徹底



グループ社員

人材の育成

人材育成の考え方

NEXCO西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します

当社グループでは、自律型人材の育成や自己変革組織を実現するため、「社員の成長、人材育成」「リーダーシップ・マネジメント力強化」「組織力・現場力強化」の3つを柱とした人事制度の構築に取り組んでいます。

若年層のうちは、幅広く全般を学び、OJT※を通じて自ら目的意識を持って考え行動する「自律型人材」への成長を促し、今後の実践につなげるための支援をしています。また、一人ひとりが使命感を持ち、安全・安心な高速道路を最前線で支える現場を知ることが重要であり、強い「現場力」を発揮する組織をつくるため、グループ会社間における人事交流を実施しています。

※ OJT(On-the-Job Training)：職場内において、管理監督者の責任のもとで行われる教育訓練全般。

[関連情報](#)⇒15ページ:特集1「高速道路の点検・再生」

[WEB掲載情報](#) キャリアマネジメントの取り組み/資格取得の支援/採用選考/研修制度

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進の考え方

一人ひとりの社員がより活躍できる組織づくりを推進しています

社員一人ひとりが自律・成長することにより、会社を取り巻くさまざまな環境の変化にしなやかに対応できる組織を目指して、2014年に「ダイバーシティ推進プロジェクト」を立ち上げました。「違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ」というビジョンを策定し、社員の意識醸成、活躍を後押しするしくみ・制度の構築の両面から、経営課題としてダイバーシティを推進しています。

そのひとつとして、女性の活躍推進に取り組んでいます。長年、男性中心の働き方だった当社における課題を抽出し、女性同士のネットワーク構築や、女性社員と経営幹部との意見交換会の実施など、女性社員のキャリア意識向上、相互理解のための取り組みを展開してきました。

今後は、女性活躍推進法に基づく行動計画をもとに、「採用」「育成」「環境整備」の各側面から女性の活躍を推進していきます。

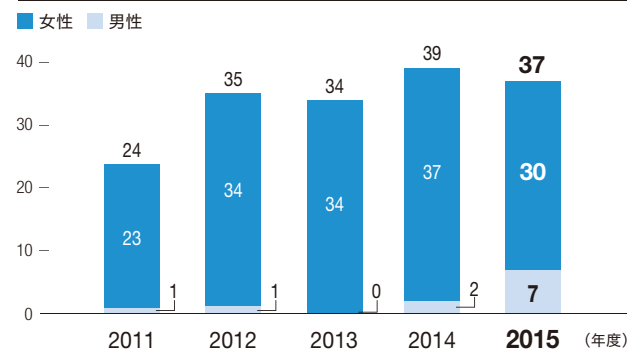
仕事と家庭の両立支援

ワークライフ・インテグレーションの実現に向けた制度改革を実施しています

“個人生活(ライフ)の充実が、仕事(ワーク)においても相乗効果を生む”という、「ワークライフ・インテグレーション(WLI)」を推進しています。これはダイバーシティを推進するうえで必要不可欠であり、WLIの実現のため、各種制度の充実および制度利用環境の整備を進めています。

中でも特に、育児と仕事の両立支援については、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画に沿って、育児休業の一部有給化や制度ガイドブックの作成・周知、「妊娠・出産・育児と仕事の両立支援面談」の導入、管理職層へのマネジメント研修の実施などを行い、社員が育児をしながら、その能力を十分に発揮し活躍を続けられる環境を整備しています。

育児休業取得実績 (単位:人)



[WEB掲載情報](#) 障がい者の雇用促進/定年後再雇用制度

働きやすい職場づくり

社員の健康管理

社員が安心して働けるようこころと体の健康管理に取り組んでいます

当社では、2015年12月からの「心理的な負担の程度を把握するための検査(ストレスチェック)」の法定義務化に先行し、2013年度から「こころの健康診断」としてストレスチェックに取り組んでいます。

また、メンタルヘルスケア体制の整備や階層別研修でのメンタルヘルスケア講習の実施、労働安全衛生法で定められた各種健康診断をはじめ、産業医・看護師による健康相談、人間ドックの利用補助や健康保険組合の各種保険事業など、社員の身体面の健康管理にも取り組んでいます。

グループ会社の取り組み

NEXCO西日本メンテナンス九州

高速道路での作業の安全性向上に取り組んでいます

NEXCO西日本メンテナンス九州は、主に高速道路の路面損傷補修などのメンテナンス業務を行っています。メンテナンスなどの実施にあたり、高速道路本線を規制するためラバーコーンの設置が必要になりますが、これまでは重さが約4kgもあるラバーコーンの設置・回収を手作業で行っており、荷台からはみ出しや一般車両との接近など、非常に危険なうえ、作業員に負担のかかるものでした。

これを改善するためロボコーン(ラバーコーン自動設置回収車)を開発し、規制にかかる一連の作業を機械化することで、作業員の安全性向上と負担軽減を図っています。現在全国の高速道路で33台稼働しており、今後も導入していく予定です。



ロボコーン(ラバーコーン自動設置回収車)

NEXCO西日本ファシリティーズ

社員の労働安全衛生教育に取り組んでいます

NEXCO西日本ファシリティーズは、ETC設備やSA・PAの建物点検、ハイウェイラジオなどの情報提供設備の点検・清掃などを主な事業としています。

現場での点検の際には足場の転倒防止を確実に実施するなど、各作業にあたっての詳細な作業手順を定めており、社員だけでなくお客さまを巻き込んだ事故に繋がらないよう細心の注意を払っています。

また、想定されるさまざまな人為的なミスを防ぐため策定した「FCT安全作業標準(第20版)」に基づき業務に従事しています。

現場での安全行動を徹底すると同時に、各事業所において定期的に労働安全衛生教育の勉強会も実施しています。今後も作業現場や安全パトロールで得た知識の共有や、勉強会で想定された事故への対策を進め、よりいっそう社員の労働安全衛生教育に取り組んでいきます。



現場での安全パトロールの様子

事業所での勉強会の様子

NEXCO西日本サービス関西

女性スタッフの雇用促進とあわせ管理職育成研修に取り組んでいます

料金收受業務は24時間の勤務であることから、2006年の事業開始当時の料金所の女性スタッフは全体の数%程度とごくわずかでした。しかし、これまでの性別による固定的な役割分担の概念を取り払い、女性活躍を促進していく取り組みとして、男女を問わない採用を想定した2015年度から5か年にわたる長期的な採用計画を策定しました。

また、管理職として必要不可欠なマネジメントスキルなどを向上させるための研修を実施し、優秀な女性スタッフを積極的に管理職に登用する機会を設けるなどの活躍の促進にも取り組んでいます。

[WEB掲載情報](#)

NEXCO西日本メンテナンス関西(社員の労働災害防止の取り組み)

社員コメント

NEXCO西日本サービス関西

目配り・気配りのCSを心がけて女性管理職が輝けるよう精いっぱい頑張ります

女性の管理職への積極的登用の話題を聞いて、「自分には関係ないこと」と思っており、昇格の際にも不安がたくさんありましたが、今では皆さんからの協力を得て、頑張っています。

日々、「管理職としてきちんとできているのだろうか?」と自問するとともに、この仕事の奥深さを実感しています。私たち世代は、まだまだ「女のくせに」と言われることが多く、お客さまから男性の管理職の対応を求められることもありますが、世間の変化と同時に、私自身も「女性だから…」と甘えることなく、明るい職場づくりをモットーに、チームワークを大切にすることを心がけています。そして、男性社会の中で女性管理職が輝けるよう精いっぱい頑張るとともに、お客さまに対しては、自分らしく目配り・気配りのCS活動を目指しています。



福知山支店 綾部料金ステーション 所長 森岡 恵子



環境保全

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

「環境基本計画」に基づき活動を推進しています

NEXCO西日本グループでは2011年7月より、「環境方針」に基づく中期計画として「環境基本計画」を策定、環境保全に取り組んでおり、毎年、当計画に基づく具体的な目標(アクションプラン)を立て、その達成に取り組んでいます。この環境基本計画は、当社の環境方針に基づく「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」という3つのテーマで構成しています。

中期計画「環境基本計画2015」の実績と「環境基本計画2020」の策定

2011年度から2015年度にかけて、「環境基本計画2015」に基づき、グループ一体となって、環境の保全・改善に積極的に取り組みました。

そして2016年8月に、新たな中期計画「環境基本計画2020」を策定しました。今後も事業活動による環境への負荷が大きい電気使用量の削減を中心に、環境方針の3つの重点テーマの実現に取り組んでいきます。

WEB掲載情報 事業活動と環境負荷

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指します。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

(2008年策定、2011年一部改定)

低炭素社会の実現に取り組めます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組めます。

循環型社会の形成に取り組めます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制(リデュース)、循環資源の再利用(リユース)及び再生利用(リサイクル)に取り組めます。

自然と共生する社会の推進に取り組めます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組めます。

低炭素社会の実現

事業活動や管内の高速道路の自動車交通によって発生するCO₂排出量を削減するため、電気使用量の削減や太陽光発電の導入、のり面の樹林化、渋滞対策などを実施しています。



のり面の樹林化

WEB掲載情報

基本的な考え方／交通渋滞の解消／省エネルギーの推進／充電システムの整備／創エネルギーの推進／のり面の樹林化／CO₂以外の温室効果ガス抑制

循環型社会の形成

天然資源の消費を抑制し、事業活動に伴って発生する廃棄物の3R(Reduce[削減]・Reuse[再利用]・Recycle[再資源化])を推進するとともに、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。



自工区および他の建設工事で発生した土砂の利用

WEB掲載情報

建設副産物の3R／緑地管理の3R／事業活動により発生する廃棄物の3R／水のリユース／環境に配慮した調達

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止柵を設置するなど、野生動植物や自然環境の保全対策を反映させた道路整備を進めています。また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、遮音壁の新設・改良などを推進しています。



沿道地域に自生する樹木の種子を採取して育てた地域性苗木の植樹

WEB掲載情報

エコロード／生物多様性の保全／野生動物の事故防止／沿道環境の保全

「環境基本計画2015」の達成状況

実行目標計画の取り組み項目		活動内容	指標	環境基本計画2015		
				目標	実績	
低炭素社会の実現	円滑な交通の確保	高速道路ネットワークの整備	新規高速道路のネットワーク整備を実施する	開通延長	109km	102km
		本線渋滞の削減	工事を効率的に実施することで工事に伴う本線渋滞損失時間を削減する	本線渋滞損失時間	500万台・時間以下	348万台・時間
		ETCレーンの複数設置	入口にETCレーンの複数設置を進める	設置箇所	384カ所	304カ所
	省エネルギーの推進	電気使用量の削減	道路施設の維持管理に要する電気使用量を削減する	電気使用量	2009年度実績より6%以上抑制する(2009年度 81.3kWh/km)	73.9kWh/km(2009年度 ▲9.1%)
		車両の燃費向上	連絡車両についてエコドライブの実施や低公害車(低燃費・低排出ガス車)の導入により燃費を向上させる	燃費	2009年度実績より向上させる(2009年度 14.07km/ℓ)	24.4%向上(2015年度 17.51km/ℓ)
		ガス使用量の削減	オフィス活動に要するガス使用量を削減する	ガス使用量(都市ガス+LPガス)	2009年度実績より6%以上削減する(2009年度 147,618m ³)	▲26.8%削減(2015年度 108,028m ³)
		水使用量の削減	休憩施設(トイレ)の維持管理に要する水使用量を削減する	水使用量	2009年度実績より抑制する(2009年度 1,633千m ³)	▲6.9%削減(2015年度 1,521千m ³)
	創エネルギーの推進	太陽光発電の導入の推進	新設料金所等に太陽光発電を設置する	導入量	203kWh設置	370kWh設置
		EVスタンドの整備	サービスエリアなどに急速充電システムを整備する	設置箇所	123カ所設置	123カ所設置
	二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO ₂ の固定	盛土のり面などの樹林化を推進する	整備面積	500ha以上実施する	666ha実施
技術開発	新技術・新材料の開発	省エネ型照明光源を導入する	設置灯数	省エネ型照明光源を導入する	842灯導入	
循環型社会の形成	環境に配慮した製品・資材等の調達の推進	グリーン調達の推進	事務用品における特定調達物品などの調達率100%を目指す	調達率	100%を目指す	100%
	廃棄物の発生抑制・資源の循環的利用の促進	維持管理車両の再利用	維持管理車両のリユースを推進する	車両台数	リユースを継続する	毎年リユース実施(5カ年合計 189台)
			植物系廃棄物(草刈など)の有効活用を推進する	有効活用率	95%以上を目指す	95.9%
		建設発生土のリサイクルを推進する	有効活用率	80%以上を目指す	97.5%	
		アスファルト・コンクリート塊のリサイクルを推進する	リサイクル率	99%以上を目指す	100%	
		コンクリート塊のリサイクルを推進する	リサイクル率	99%以上を目指す	100%	
		休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する	再資源化率	100%を目指す	100%	
		建設発生木材のリサイクルを推進する	再資源化・縮減率	95%以上を目指す	99.0%	
		建設汚泥のリサイクルを推進する	再資源化・縮減率	90%以上を目指す	99.7%	
	バイオディーゼル燃料使用を拡大する	維持作業機械の使用量	9,600ℓ/年(以上)を維持する	13,897ℓ/年平均(2015年度 13,886ℓ/年)		
自然と共生する社会の推進	自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する(保全)	設置・改良延長	681km	498km
		動物侵入防止対策を推進する(建設)	設置延長	75km	96km	
		森林再生事業「つなぎの森」を展開する	整備面積	43ha	39ha	
	生活環境の保全	道路交通騒音対策	高機能舗装の敷設を推進する(保全)	敷設延長	974車線・km	2,469車線・km
		高機能舗装の敷設を推進する(建設)	敷設面積	1,104千m ²	1,826千m ²	
遮音壁の設置を推進する(保全)	設置延長	9km	5km			
遮音壁の設置を推進する(建設)	設置延長	17km	33km			



社会貢献

社会貢献活動

活動方針

NEXCO西日本グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、事業以外においては、グループのノウハウを活かすべく事業活動に親和性の高い分野で活動することを基本としています。またボランティアや地域連携イベントへの参画については、社員本人やグループ会社の主体性を尊重しており、「安全」「環境」「地域貢献」の各分野で取り組んでいます。

交通安全の啓発活動

高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう講習会を開催しています

高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、地域の警察や交通安全協議会、市町村等と連携し、交通安全教室や講習会を行っています。

シルバー講習会では特に高速道路での逆走事故防止や緊急時の対処法などを中心に、幼稚園での交通安全教室ではキャラクターや紙芝居を使うなどわかりやすさを心がけながら、シートベルト着用の重要性や横断歩道での安全確認の仕方、飛び出し事故の怖さなどについてお伝えしています。

今後も地域の皆さまが安全に暮らせるよう各地域で開催していきます。



幼稚園での交通安全教室の様子

関係機関への講習会の実施

ノウハウを活かした講習会を実施しています

当社グループのパトロール会社では、関係機関に対し受傷事故防止等に関する講習会を実施しています。

例えば、2015年10月には京都府警察学校(専科教養)において、交通事故現場での受傷事故防止に配慮した車両誘導をテーマに、交通警察業務を担当する警察官を対象に机上教育として「危険予知トレーニング

(KYT)」などの講義、実技訓練では規制器材や発炎筒の使用方法、誘導時の赤旗の振り方などの指導を行いました。参加者の安全に対する意識は高く、高速道路特有の事故や現象などについて真剣に耳を傾けられており、実技でも熱心に取り組んでいただきました。

今後もこうした業務でのノウハウを活かした取り組みを継続し、地域社会へ貢献していきます。



NEXCO西日本パトロール関西による講義の様子 実技指導の様子

資機材やノウハウを活かした支援活動

相互協力協定に基づく給水支援活動を実施しました

2016年1月27日、広島県北広島町で寒波による断水が発生し、約2,000世帯4,500人余りに影響がおよびました。

NEXCO西日本メンテナンス中国千代田保全事務所では、当社が広島県と締結している「大規模災害発生時等における相互協力に関する協定」に基づき、広島県からの給水支援要請を受け、1月28日からの4日間で散水車延べ19台を出動させました。給水先は千代田中央病院などの医療機関や工業団地など計8カ所で、合計約160トンの給水を行いました。

今後も有事の際には、資機材やノウハウを活かした支援を実施していきます。



現地での給水支援の様子

WEB掲載情報 つなぎの森 / 各種環境保全活動への参加 / 学生や地域の子どものための教育支援 / 地域イベントへの参加やボランティアなどを通じた地域貢献 / グループ社員の社会貢献活動参加の奨励・支援

財務報告

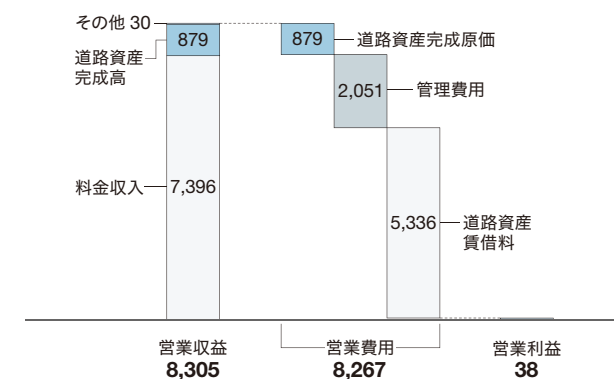
連結損益計算書

(単位:億円)

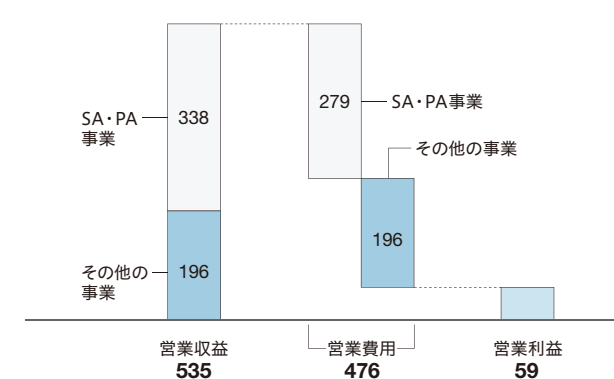
区分	2015年度	2014年度	増減
営業収益			
高速道路事業	8,305	9,615	△ 1,309
料金収入	7,396	7,181	214
道路資産完成高	879	2,400	△ 1,521
その他	30	32	△ 2
関連事業	535	504	30
SA・PA事業	338	327	11
その他の事業	196	177	19
	8,841	10,120	△ 1,278
営業費用			
高速道路事業	8,267	9,606	△ 1,339
道路資産賃借料	5,336	5,210	126
道路資産完成原価	879	2,400	△ 1,521
管理費用	2,051	1,995	56
関連事業	476	458	18
SA・PA事業	279	277	1
その他の事業	196	180	16
	8,743	10,064	△ 1,321
営業利益			
高速道路事業	38	8	29
関連事業	59	46	12
(うちSA・PA事業)	(59)	(49)	(9)
	97	55	42
経常利益	128	79	48
当期純利益	73	30	43

注1) NEXCO西日本グループは、当社および連結子会社26社、持分法適用の関連会社等7社で構成されており、高速道路事業、SA・PA事業、その他の事業を行っています。
 注2) 「SA・PA事業」とは、高速道路のSA・PAにおける飲食・物販ならびにその不動産を賃貸する等の事業をいいます。
 注3) 「その他の事業」とは、受託事業、駐車場事業、トラックターミナル事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。
 注4) 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

高速道路事業の損益 (単位:億円)



関連事業の損益 (単位:億円)



高速道路事業の概況

- 当決算期の当社管内の高速道路の通行台数は、前期比2.3%増の1,014百万台となり、料金収入は、前期比214億円増の7,396億円となりました。
- 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、前期比126億円増の5,336億円となりました。管理費用は、道路保全点検や舗装補修費用の増加などにより、前期比56億円増の2,051億円となりました。
- 道路資産完成高は、中国自動車道 夢前スマートICの完成などがありましたが、前期のような徳島自動車道(徳島IC~鳴門JCT)や東九州自動車道(豊前IC~宇佐IC、行橋IC~みやこ豊津IC)の完成といった大規模の新規完成がなかったことから、前期比1,521億円減の879億円となりました。なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。
- 高速道路事業全体の営業利益は、前期比29億円増の38億円となりました。

関連事業の概況

- SA・PA事業の営業収益は、通行台数の増加を受けて前期比11億円増の338億円となりました。その一方で、営業費用は販管費の減少などにより、前期比1億円増の279億円となりました。その結果、営業利益は、前期比9億円増の59億円となりました。
- 関連事業全体の営業利益は、上記のSA・PA事業の営業利益の増加により、前期比12億円増の59億円となりました。

第三者意見



「コミュニケーションレポート2016」では、まずNEXCO西日本グループの基幹事業である高速道路事業について、高速道路事業それ自体が、建設・維持管理を含め、どのように計画・遂行されているか、また企業としていかにコスト負担を下げながら効率の良い事業計画を進めているかを、写真、イラスト等の画像情報を効果的に使いながら、詳細にわかりやすくステークホルダーに伝える努力をしていることが評価できます。またレポートの要約版と全体版(ウェブサイト版)とで、内容の焦点の当て方や専門性のレベルを変えることで、媒体によって伝え方を工夫しているのも良いと思います。

新名神高速道路の事故で人命が失われたことや、また取引における不祥事は大変残念なことではありますが、トップのメッセージやコーポレート・ガバナンス体制の詳細な説明は、企業としての再発防止へのコミットメントが伝わる内容となっています。これは企業の社会的責任としては当然ではありますが、道路事業というインフラに関わる事業を推進するうえで、社会的に大きな役割と責任を担っているということが改めてクローズアップされる内容となっていると思います。

2016年度版ではレポートの初めでCSRに対する考えを明確にし、ステークホルダーに対してどのようなコミットをしていくか、重点課題と具体的な取り組み内容を一覧の形で示されている点も、昨年度版より改善されていて良いと思います。

課題としては、2016年度からの中期経営計画にも触れられていますが、策定の背景を簡単に紹介するにとどまらず、高速道路の大規模なリニューアルプロジェクト等との関連など、もう少し説明があった方が良くもしいかなと思いました。今後もステークホルダーへの効果的なコミュニケーションを目指していただければと思います。

第三者意見をうけて



今年度の第三者意見は、昨年度に引き続き、神戸大学大学院経営学研究科教授の南知恵子様からいただきました。

南様からは、要約版と全体版(ウェブサイト版)の2つの媒体の使い分けを含め、当社グループの事業を、より詳細によりわかりやすくステークホルダーに伝えようと工夫している点、自社のCSRに対する考え方を明確にしたうえで、CSRに関する重点課題と取り組み状況を報告している点をご評価いただきました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

また、新しくスタートした中期経営計画2020に関しては、策定の背景と重点施策などの具体的な取り組みとの関連性についてもう少し詳しい説明がほしいというご指摘をいただきました。近年の重大な災害や事故での教訓を踏まえ、安全・安心を最優先にすることをグループ理念として明確にし、事業を実施しているところですが、高速道路リニューアルプロジェクトをはじめとする各施策が社会に与える影響は小さくありませんので、ご提言を踏まえ、レポートのさらなる充実はもちろん、ウェブサイトでの情報発信も強化するなど、一つひとつの事業へのご理解をいただけるよう積極的な広報に努めてまいります。

新しい中期経営計画のもと、これまでと変わらずステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを促進することで、地域の発展に貢献できるようグループ一丸となって取り組んでまいります。

編集方針

NEXCO西日本グループでは、ステークホルダーの皆さまに当社グループのCSRに対する考え方や取り組みをわかりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「コミュニケーションレポート」を編集・発行しています。

レポートは「全体版」と「要約版」の2つのメディアで発行しており、詳細な取り組みを網羅的に報告する「全体版」では、ウェブサイトに掲載することで、ステークホルダーの皆さまが情報にアクセスしやすいように工夫しています。また、重要な取り組みを冊子にコンパクトにまとめた「要約版」では、ビジュアルを多用することで、親しみやすく手に取りやすいレポートを目指しました。

報告対象期間:

2015年4月1日～2016年3月31日(一部2016年4月1日以降の内容も含まれます)

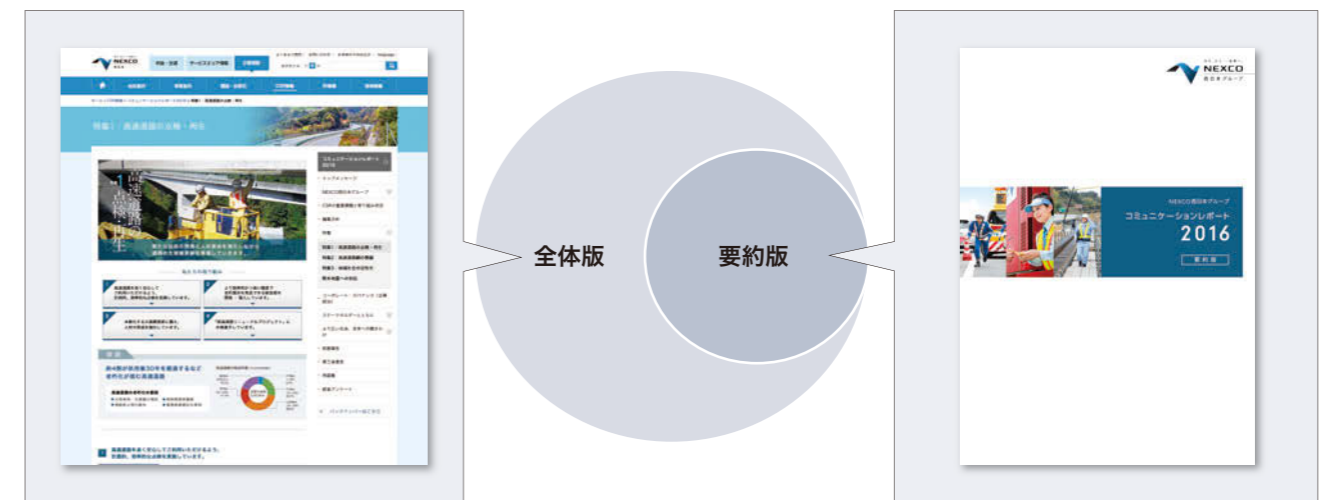
発行時期:

2016年9月(前回:2015年7月、次回予定:2017年7月)

参考にしたガイドライン等:

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」(持続可能な社会の実現に向けて、組織の目標と実績について報告するための国際的ガイドライン)
- (財)日本規格協会「ISO26000:2010」(企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス)

「コミュニケーションレポート2016」各メディアの情報内容



全体版

網羅的な情報をウェブサイトで開示

要約版

重要な情報を抜粋し、冊子として発行

レポートへの主なご意見と改善のポイント (「コミュニケーションレポート2015」読者アンケートより)

